

市川市 スポーツ振興 基本計画



平成 29 年 3 月
市 川 市

はじめに



本市では、国や県が示しているスポーツ振興施策を踏まえ、平成19年3月に「市川市スポーツ振興基本計画」を策定し、「健康」と「ふれあい（交流）」をスポーツ振興のキーワードと捉え、様々な施策に取り組んでまいりました。

近年、世界でも類をみない少子高齢化の急速な進行やライフスタイルの多様化など、私たちをとりまく環境は大きく変化しており、そのような中、健康長寿社会へ向けてスポーツの果たす役割は大変重要であります。

市民の皆様それぞれの心身の健康の保持増進はもちろんのこと、健康寿命の延伸に伴う医療費、介護費の抑制やスポーツを通じた市民交流による地域の活性化など、スポーツの効果に対する期待は高まるばかりです。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、今後ますますスポーツへの機運が高まることが予想されることもあり、このたび本計画の内容を一部見直し、引き続きスポーツの振興と発展に努めていくことといたしました。

今後は、多様化・複雑化するニーズやそれぞれのライフステージに応じたスポーツ環境の充実により、小さな子どもからご高齢の方まで、また障がいの有無にかかわらず、全ての方が健康で快適に暮らせるまちを目指してまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の見直しにあたり、それぞれの専門分野や市民の代表としての立場からご審議くださいましたスポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言をお寄せくださいました多くの市民、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

平成29年3月

市川市長 大久保 博

目次

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画の策定趣旨と背景	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	4
第2章 市川市の現状	5
1 人口等の状況	5
2 スポーツ施設等の状況	7
3 アンケート調査結果からみえる現状	12
4 市川市のスポーツにおける課題	21
第3章 計画の基本的な考え方	27
1 基本理念	27
2 計画の基本方針	28
3 基本目標	29
4 数値目標	31
5 計画の体系	32

第4章 施策の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

基本目標 1	ライフステージに応じた生涯スポーツの推進と機会の創出.....	33
基本目標 2	スポーツをする空間・場所の確保、充実.....	35
基本目標 3	スポーツ団体・クラブの育成.....	39
基本目標 4	スポーツを支える人材の育成・確保.....	41
基本目標 5	スポーツの情報の収集・提供.....	42
基本目標 6	スポーツ競技力の強化	44

第5章 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

1	計画の推進体制	46
2	計画の評価と進捗管理	46

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

1	スポーツに関するアンケート調査結果.....	47
2	審議会委員名簿	65
3	用語解説	66



計画の策定にあたって

1 計画の策定趣旨と背景

近年、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化が進むなど、国内を取り巻く社会環境や価値観が急激に変化している中、スポーツへの期待はますます高まってきています。

国では、平成 22 年8月に「新たなスポーツ文化の確立」を目指す姿とし、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」、「連携・協働の推進」を基本的な考えとした「スポーツ立国戦略」を策定しました。そして、社会の現状や環境の変化を踏まえ、スポーツ界における新たな課題に対応するため、スポーツ振興法を 50 年ぶりに全面改正し、新たにスポーツ基本法を平成 23 年8月に施行しました。平成 24 年3月には「年齢や性別、障がいなどを問わず、広く人々が、関心、適性などに応じてスポーツに参画することができる環境」を整備するために、「スポーツ基本計画」を策定しました。

千葉県では、平成 23 年6月に公布されたスポーツ基本法の趣旨や、平成 22 年 12 月に制定された千葉県体育・スポーツ振興条例に基づき、県の体育・スポーツのあるべき姿を展望した、総合的な指針を示す、第 1 1 次「千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定しました。「すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う『スポーツ立県ちば』の実現を目指し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進に取り組んでいます。

本市においても、スポーツ振興を推進するため、平成 19 年3月に「市川市スポーツ振興基本計画」を策定し、市民と行政が一体となって、各種取り組みを進めてきました。

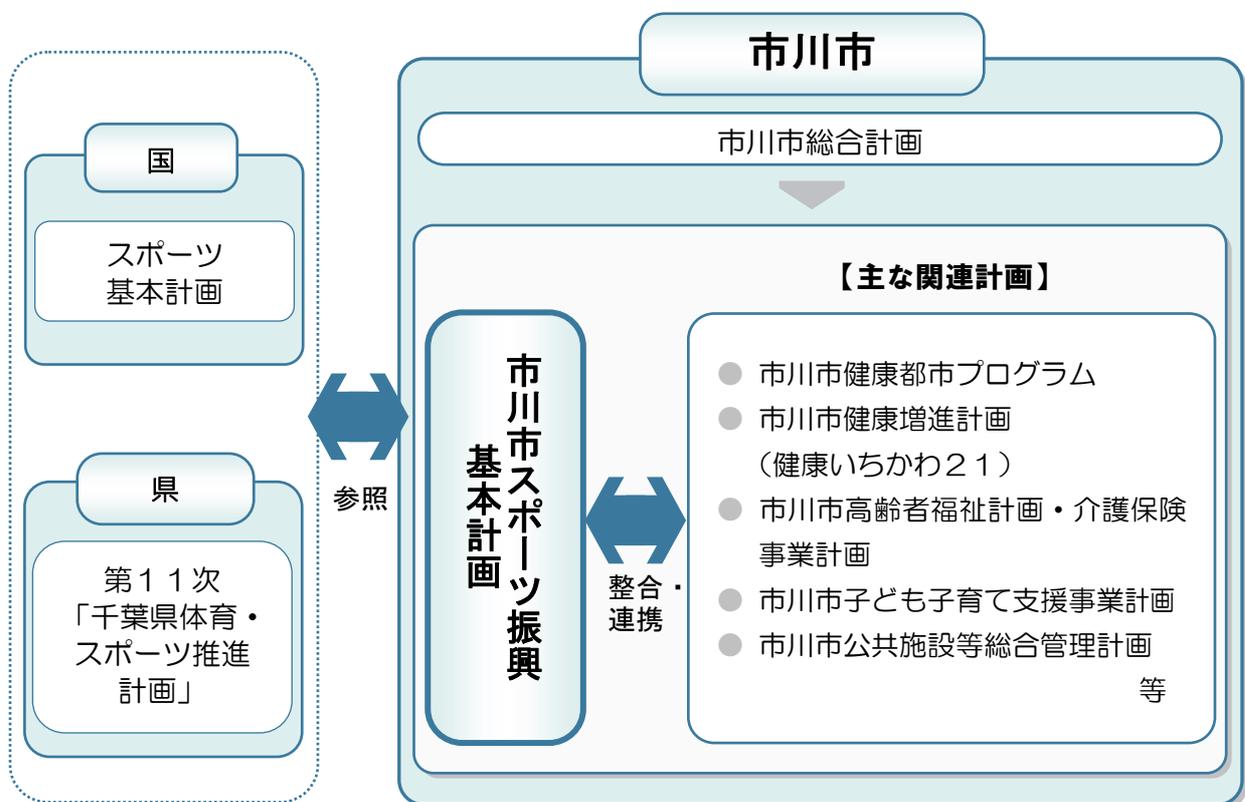
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることが決定し、市民のスポーツに対する関心が高まることが期待され、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけにして、スポーツの推進に繋がる施策の展開も急務となるなか、現在の「市川市スポーツ振興基本計画」の計画期間が終了することから、国の基本計画や県の計画を参照するとともに、社会状況の変化や地域特性からみられる新たな課題などに対応するため、「市川市スポーツ振興基本計画」の見直しを行うものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、国の「スポーツ基本計画」及び県の第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」を参照して見直しを行うものです。

市川市総合計画では、施策目標として「スポーツ環境の充実」と設定しており、その目標の実現に向け、本計画に基づき、施策や事業を推進していきます。

また、市の関連計画との整合性を踏まえた計画とします。



【参考】 スポーツ基本計画（国）

（背景と展望）

スポーツ基本法におけるスポーツの果たす役割を踏まえ、目指すべき具体的な社会の姿として以下の5つを掲示。

- ①青少年が健全に育ち、他者との協同や公正さと規律を重んじる社会
- ②健康で活力に満ちた長寿社会
- ③地域の人々の主体的な協働により、深い絆で結ばれた一体感や活力がある地域社会
- ④国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し、活力ある社会
- ⑤平和と友好に貢献し、国際的に信頼され、尊敬される国

（今後10年間を見通したスポーツ推進の基本方針）

「年齢や性別、障がい等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題とし、次の課題ごとに政策目標を設定。

- ①子どものスポーツ機会の充実
- ②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ③住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- ④国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- ⑤オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会の招致・開催等を通じた国際貢献・交流の推進
- ⑥スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- ⑦スポーツ界の好循環の創出

（今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策）

1. 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進
3. 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
4. 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
5. オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進
6. ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
7. スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

【参考】 第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」

（基本理念）

これからの千葉県の体育・スポーツのあるべき姿を展望し、「すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う『スポーツ立県ちば』」の実現を目指すもの。

（千葉県体育・スポーツ推進施策の視点〈計画の柱〉）

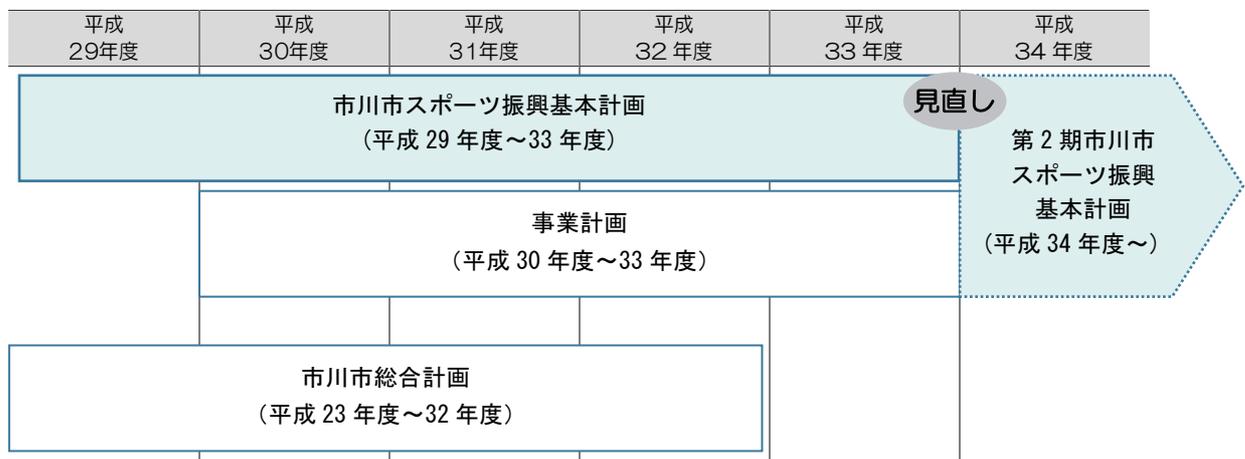
- ①生涯スポーツの推進
- ②子どもの体力向上と体育の充実
- ③競技力の向上
- ④スポーツ環境の整備
- ⑤スポーツを活用した地域の活力づくり

3 計画の期間

本計画は、現行計画の一部見直しを行うとともに、5年間継続することとし、平成33年度までを計画期間とします。

また、スポーツ環境の変化や計画の進捗具合などに対応するため、本計画に基づく事業計画を作成し、具体的な取り組みや目標を明確にし、効率的な推進を図っていきます。

事業計画は、平成33年度までの4年間の計画としますが、計画期間内であっても、状況に応じて見直しを行い、計画の実効性を高めます。



【計画の見直しにあたって】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の影響や機運の醸成など、大きな影響力に柔軟に対応し、市の方針や市民のニーズを反映するため、また、市の財産として何が残せるか、開催後に検討し、様々なことを反映して、次期計画を策定することとし、現行の計画を一部見直し、5年間継続する。



第2章

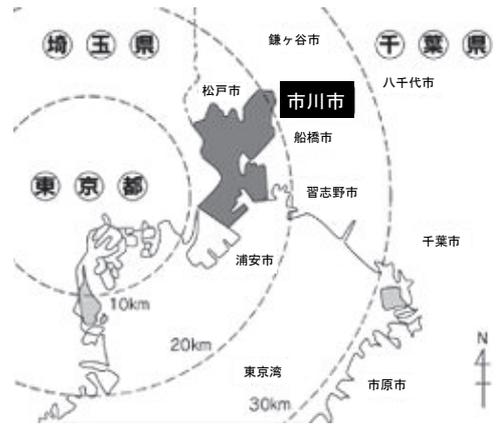
市川市の現状

1 人口等の状況

(1) 市川市の地域性

市川市は、千葉県の西部、江戸川を隔てて東京都と相對しています。都心から20kmの圏内に位置し、文教・住宅都市として発展してきました。都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあり、東西方向はJR総武線、京葉線などの鉄道や京葉道路、国道14号などの道路があります。

北部には梨栽培などの農業が盛んで屋敷林などの緑も多く、また学園も多い文教・住宅都市です。南部は、東京湾に臨み京葉工業地帯の一翼を担っているとともに、都会的な住宅都市が形成されています。

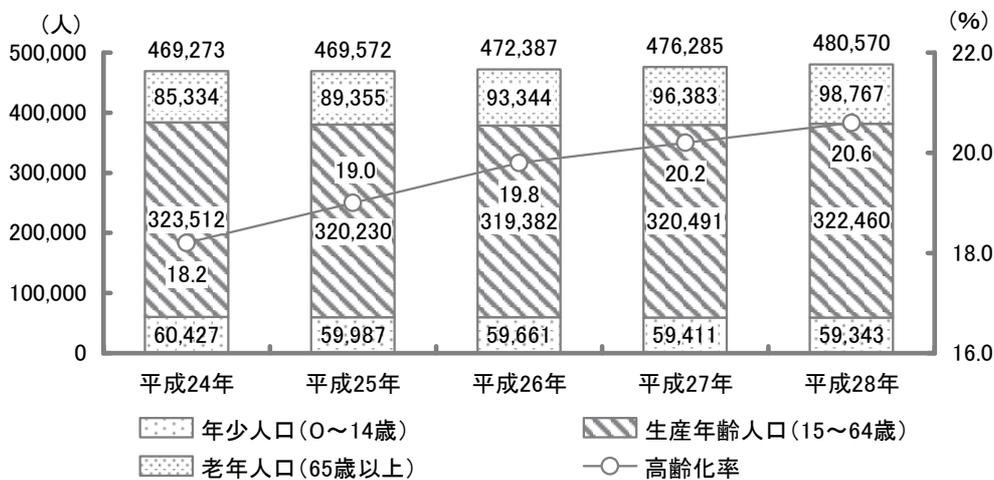


(2) 人口の動向

①人口及び高齢化率の推移

人口をみると、平成24年以降増加しており、平成28年で480,570人となっています。年齢区分で見ると、老年人口(65歳以上)は増加している一方、年少人口(0~14歳)は減少しており、高齢化率は平成28年で20.6%となっています。

人口及び高齢化率の推移

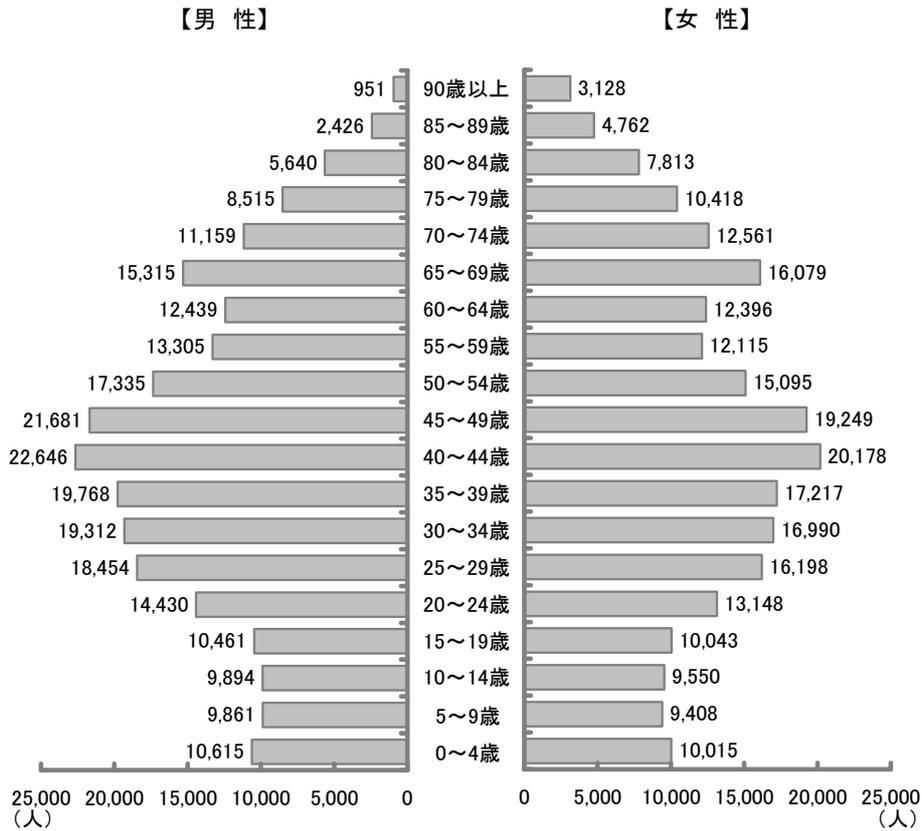


資料：人口動態調査（各年9月末現在）

②人口ピラミッド

人口ピラミッドをみると、男女ともに40～44歳が最も多くなっています。また、60歳以降で女性が男性より多くなっています。

人口及び高齢化率の推移



資料：人口動態調査（平成28年9月末現在）

2 スポーツ施設等の状況

(1) スポーツ施設の整備状況

① 公共スポーツ施設数

市内の公共スポーツ施設の整備状況は以下のようになっています。市川市スポーツセンター、塩浜市民体育館といった複合スポーツ施設の他、野球場、体育館、屋外プールなどの公共スポーツ施設を整備しています。

公共スポーツ施設数（令和元年度現在）

【スポーツ施設】

名称		用途
市川市スポーツセンター（国府台公園）		
1	国府台公園陸上競技場	陸上競技 サッカー ラグビー
2	国府台公園野球場	野球
3	国府台公園テニスコート	硬式・軟式テニス
4	国府台市民体育館	
	第1体育館（メイン）	室内スポーツ各種
	第2体育館（サブ）	室内スポーツ各種
	柔道場	柔道 太極拳 健康体操 他
	剣道場	剣道 空手道 体操 他
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
5	信篤市民体育館	
	体育館	室内スポーツ各種
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
	ゲートボール場	ゲートボール
6	塩浜市民体育館	
	第1体育館（メイン）	室内スポーツ各種
	第2体育館（サブ）	室内スポーツ各種
	第1武道場・第2武道場	柔道 剣道 空手道 他
	相撲場	相撲
	トレーニング室	体力・筋力トレーニング （個人）
	テニスコート	硬式・軟式テニス
7	福栄スポーツ広場	
	野球場	軟式野球 ソフトボール
	テニスコート	硬式・軟式テニス
	ゲートボール場	ゲートボール
8	青葉少年スポーツ広場	少年野球、フットサル、 グラウンドゴルフ、ゲートボールなど
9	J：COM 北市川スポーツパーク （北市川運動公園） テニスコート	硬式・軟式テニス

【運動広場】

名称	用途
1 妙典少年広場	少年野球
2 柏井少年広場	少年野球
3 北方少年広場	少年野球
4 田尻第2少年広場	女子フット 多目的
5 大野4丁目少年広場	少年野球 女子フット

【公園内等運動施設】

名称		用途
1	江戸川河川敷緑地公園野球場 （1号）	軟式野球
2	江戸川河川敷緑地公園野球場 （2号）	軟式野球
3	江戸川河川敷緑地公園野球場 （3号）	軟式野球
4	江戸川河川敷緑地公園野球場 （4号）	軟式野球
5	江戸川河川敷緑地公園野球場 （5号）	軟式野球
6	江戸川河川敷緑地公園野球場 （6号）	少年野球
7	江戸川河川敷緑地公園野球場 （7号）	少年野球
8	江戸川河川敷緑地公園野球場 （9号）	少年野球
9	江戸川河川敷緑地公園野球場 （10号）	少年野球
10	江戸川河川敷緑地公園野球場 （11号）	少年野球
11	江戸川河川敷緑地公園野球場 （12号）	軟式野球
12	江戸川河川敷緑地公園野球場 （13号）	軟式野球
13	江戸川河川敷緑地公園サッカー 場	サッカー
14	塩浜1号公園野球場	軟式野球 少年野球
15	原木東浜公園ソフトボール場	ソフトボール 少年野球
16	原木公園ソフトボール場	ソフトボール 少年野球
17	国分川調節池緑地多目的広場	サッカー、ラグビー、グラ ウンドゴルフ、ゲートボ ール、フットベース、軟式野 球など

【その他施設】

名称	用途
1 市川市市民プール	レジャープール
2 北方多目的広場	ラグビー等
3 市民キャンプ場	キャンプ等
4 妙典少年野球場	少年野球
5 市川大野高等学園野球場	少年野球

②公共スポーツ施設の築年数

本市のスポーツ施設は全般的に老朽化が進み、特に市川市スポーツセンター、市川市市民プールでは、一般的な法定耐用年数を超過しており、耐震化工事や施設・設備修繕により、安全性の向上等を図っております。

主要なスポーツ施設の築年数（平成 28 年現在）

名称	種別	築年数	耐用年数の目安（※）	耐用年数の超過
市川市スポーツセンター	陸上競技場	63 年	スタンド：30～45 年 競技スペース：30 年	○
	野球場	66 年	30 年	○
	体育館	43 年	30～50 年	○
市川市市民プール	屋外プール	34 年	30 年	○
信篤市民体育館	体育館	31 年	30～50 年	
塩浜市民体育館	体育館	28 年	30～50 年	
福栄スポーツ広場	野球場、テニス	23 年	30 年	
いちかわ市民キャンプ場	キャンプ場	29 年	—	

※耐用年数は耐用年数省令（財務省）を参照

体育館（SRC 造、RC 造）47 年、スタンド 45 年

体育館（S 造）34 年、スタンド 30 年

※耐用年数については、「公共施設等総合管理計画の個別計画」との整合を図ります。

(2) 公共スポーツ施設の利用状況

公共スポーツ施設の利用状況は、体育館やトレーニング室などを中心に増加傾向にあります。

公共スポーツ施設の利用状況の推移

単位：人

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
国府台スポーツセンター					
第1体育館	63,166	63,211	63,704	67,938	66,127
第2体育館	22,445	24,204	26,675	26,386	26,192
柔道場	16,985	17,392	14,415	13,212	11,746
剣道場	20,310	20,748	18,817	22,416	20,173
トレーニング室	20,465	21,407	25,227	28,868	30,089
野球場	20,912	19,781	18,554	17,339	19,266
陸上競技場	39,612	45,263	47,062	50,206	61,307
テニスコート	47,585	46,339	46,572	52,394	44,939
中国分スポーツ広場	27,362	28,000	26,379	25,399	25,610
塩浜市民体育館					
第1体育館	81,548	83,071	81,777	83,190	85,856
第2体育館	15,630	13,549	14,738	14,901	14,974
第1武道場	22,058	17,003	17,941	14,084	14,531
第2武道場	32,336	29,945	26,979	25,795	19,476
相撲場	1,120	1,400	1,387	654	1,539
トレーニング室	31,965	34,448	36,369	39,847	36,448
ジョギングコース	269	88	80	13	2
テニスコート	2,902	4,433	4,188	4,400	3,073
青葉少年スポーツ広場	11,825	12,042	14,175	13,697	14,759
福栄スポーツ広場					
野球場	19,452	17,269	18,855	21,190	29,175
テニスコート	39,692	39,967	45,644	43,481	46,269
ゲートボール場	11,956	11,837	19,367	22,649	20,714
まちかど健康サロン	7,849	8,192	8,377	8,658	8,845
信篤市民体育館					
体育館	29,099	26,798	26,457	27,950	26,763
トレーニング室	9,395	13,481	15,293	16,433	13,658

(3) スポーツ教室開催状況

本市では、市民全般、高齢者、小中学生などを対象に、様々なスポーツイベントや教室が実施されています。

平成 28 年度は、以下のような市民スポーツ教室、健康スポーツ教室を実施しました。

平成 28 年度 市民スポーツ教室（定期教室）

種目	対象	場所	合計
ソフトテニス	小学生以上	市川市スポーツセンター	13 回
テニス	小学生	市川市スポーツセンター	14 回
卓球	小学生以上	国分小学校	18 回
陸上競技	小学 5 年生～、中高生	市川市スポーツセンター	14 回
ハンドボール	小学生	昭和学院アクティブコート	24 回
バスケットボール	小学生以上	富貴島小学校	15 回
バスケットボール	小学生・中学生	大和田小学校	19 回
インディアカ	小学生～	妙典小学校	10 回
バドミントン	小学生～	幸小学校	22 回
バドミントン	年長園児（保護者同伴）～	信篤小学校	23 回
バレーボール	小学生・中学生	市川市スポーツセンター	9 回
バレーボール	小学生・中学生	行徳小学校	17 回
アーチェリー	小学生（身長 130 cm 以上）～	曾谷公民館	38 回
合気道	6 歳～	第一中学校	9 回
フェンシング	小学生～	市川小学校	34 回
剣道	小学生（面付者）	市川市スポーツセンター	24 回
弓道	小学 4 年生～	曾谷公民館	11 回
ラグビーフットボール	3 歳～15 歳	北方多目的広場 市川市スポーツセンター	12 回
ソフトボール	小学 4 年生～	原木公園ソフトボール場	25 回

平成 28 年度 健康スポーツ教室

種目	概要	場所	合計
ボディコンディショニング教室	姿勢、骨配列、筋肉を意識したりセットと筋トレを行います。	信篤市民体育館	15 回
初級者のエアロビクスダンス教室	初心者、初級者対応の比較的軽い有酸素運動を行います。音楽とステップ等の組み合わせで楽しみながら心肺機能を保持・向上させることができます。	信篤市民体育館	
初心者のヨガ教室	初めての方、体力に自信のない方も全身をしっかりと動かしながらヨガのポーズを行うことで、ヨガの効果を体感できます。	信篤市民体育館	15 回
ヨガ教室	身体や心にたまったコリを丁寧にほぐしていきます。基本的な呼吸法・ポーズをゆっくりバランス良く行っていきます。	信篤市民体育館	
初級者のエアロビクスダンス教室	初心者、中高年齢の方を対象に、ステップ等の組み合わせで、比較的軽い有酸素運動により心肺機能を向上させます。	塩浜市民体育館	15 回
ストレッチ教室	ゆっくりと身体をほぐしたり伸ばして、関節可動域の改善や筋力も鍛えます。	塩浜市民体育館	
ボディメイクエクササイズ教室	骨盤を滑らかに動かすことで全身の代謝を高め、間接に負担をかけないよう筋肉をつけます。	塩浜市民体育館	15 回
ベーシックマットピラティス教室	マットの上で行う体幹トレーニングでバランスの取れた筋力と柔軟性をつくれます。	塩浜市民体育館	
骨・コツストレッチ教室	骨の動きを意識した「ナンバの動き」を用いたストレッチとダンスを行います。	塩浜市民体育館	15 回
リズム体操教室	音楽に合わせてリズムを取りながら、楽しく身体を動かし、足腰の筋力、腹背筋をつけ、体幹を高める基礎体操です。	塩浜市民体育館	
アクアビクス教室	水の抵抗を使って運動することにより、健康や体力を向上させます。	市川市市民プール	8 回

3 アンケート調査結果からみえる現状

(1) 調査概要

①調査の目的

市川市スポーツ振興基本計画の見直しにあたって、社会情勢や環境の変化、市民のスポーツに関する意識や要望の多様化に対応し、市民の意見などを十分に反映させた計画を策定するために行うものです。

②調査対象

本市在住の18歳以上を無作為抽出

③調査期間

平成28年8月3日から平成28年8月22日

④調査方法

郵送による配布・回収

⑤回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000 通	911 通	30.4%

⑥調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

※調査結果の全容は、参考資料をご参照ください。（47頁以降）

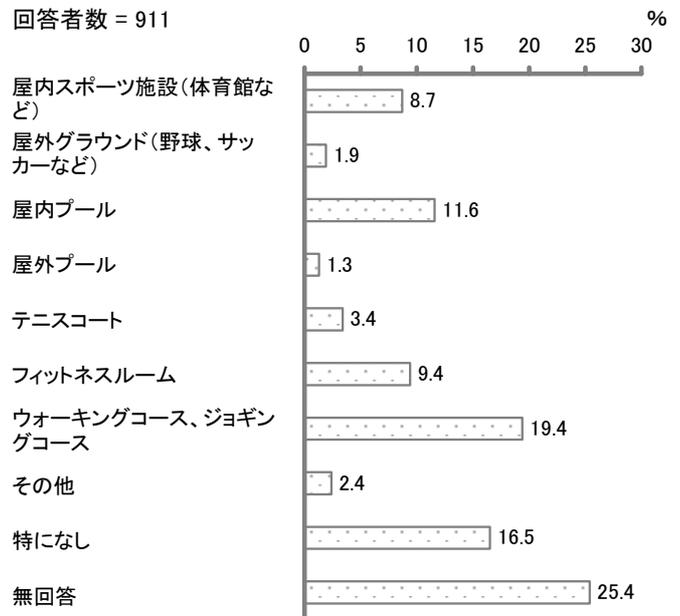
(2) スポーツをする空間・場所の確保、充実

① 今後充実してほしいスポーツ施設

今後充実してほしいスポーツ施設

今後充実してほしいスポーツ施設は、「ウォーキングコース、ジョギングコース」の割合が19.4%と最も高く、身近でウォーキングやジョギングなどができる場の充実が求められています。

回答者数 = 911



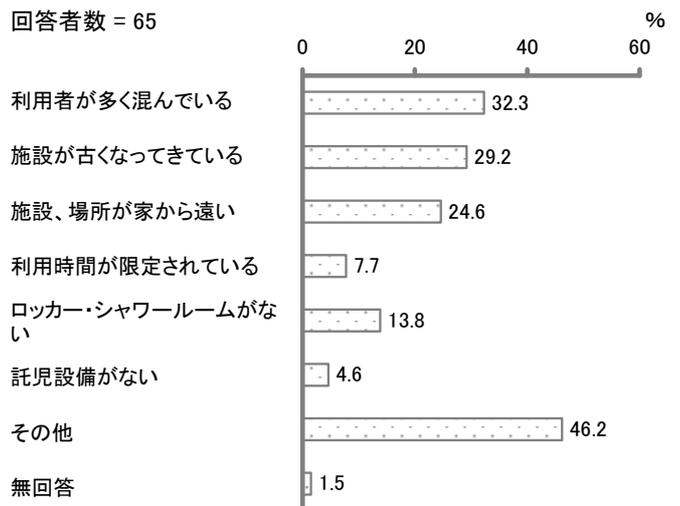
② スポーツ施設に満足していない理由

スポーツ施設に満足していない理由

スポーツ施設に満足していない理由は、「利用者が多く混んでいる」の割合が32.3%と最も高く、次いで「施設が古くなってきている」の割合が29.2%、「施設、場所が家から遠い」の割合が24.6%となっています。

市内のスポーツ施設については、スポーツをする場の充実が求められます。

回答者数 = 65



③ 運動・スポーツの実施場所

運動・スポーツの実施場所

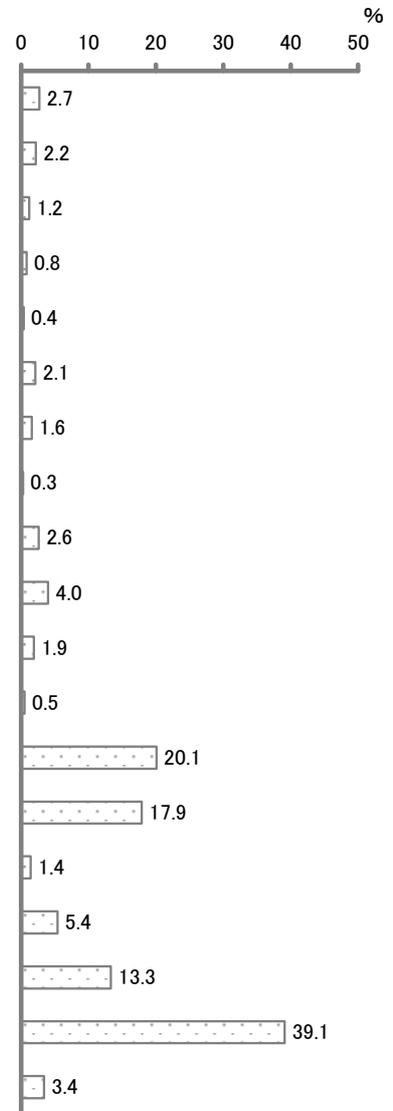
運動・スポーツの実施場所は、「特になし」を除くと、「自宅の近くの河川敷、公園・空き地」の割合が 20.1%と最も高く、次いで「民間のスポーツクラブ」の割合が 17.9%となっています。

運動・スポーツをしている市民の多くは、公園・空き地や民間のスポーツ施設を利用しており、身近で気軽にスポーツ活動ができる場を確保することで、市民のスポーツ実施率の向上につながることが期待できます。

また、民間のスポーツクラブについては、連携・活用を検討していく必要があります。

回答者数 = 911

国府台市民体育館	2.7
塩浜市民体育館	2.2
信篤市民体育館	1.2
国府台陸上競技場	0.8
江戸川河川敷球技場	0.4
市民プール	2.1
福栄スポーツ広場	1.6
中国分スポーツ広場	0.3
テニスコート	2.6
公民館	4.0
小学校	1.9
中学校	0.5
自宅の近くの河川敷、公園・空き地	20.1
民間のスポーツクラブ	17.9
職場のスポーツ施設	1.4
市外の公共スポーツ施設	5.4
その他	13.3
特になし	39.1
無回答	3.4



(3) スポーツ団体・クラブの育成

① 総合型地域スポーツクラブの認知度

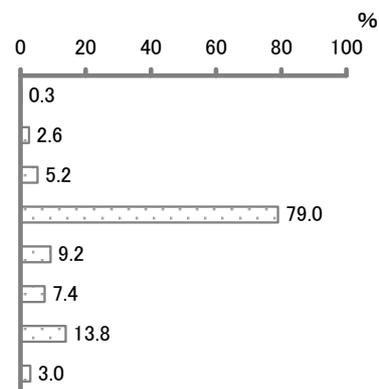
総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブの認知度は、「知らない」の割合が79.0%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が13.8%となっています。

まだまだ市民の総合型地域スポーツクラブの認知度は低く、更なる周知が必要です。

回答者数 = 911

- 既に参加している
- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない
- 興味がある
- どちらともいえない
- 興味がない
- 無回答



② スポーツ活動団体への所属希望

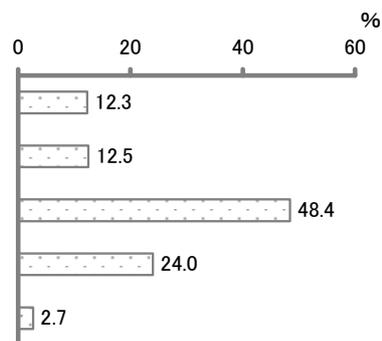
スポーツ活動団体への所属希望

スポーツ活動団体への所属希望は、「現在も今後も所属するつもりはない」の割合が48.4%と最も高いものの、一方で「所属していないが今後所属したい」の割合が12.5%となっています。

活動団体の周知や所属意向を高めるなど、所属につながる働きかけを進めていくことが重要です。

回答者数 = 911

- 所属している
- 所属していないが今後所属したい
- 現在も今後も所属するつもりはない
- わからない
- 無回答



(4) スポーツを支える人材の育成・確保

① 市川市公認スポーツ指導者制度の認知度

市川市公認スポーツ指導者制度の認知度

市川市公認スポーツ指導者制度の認知度は、「知らない」の割合が87.5%と、知っている市民は1割未満となっており、認知度を高めるために一層の周知を図ることが必要です。

回答者数 = 911

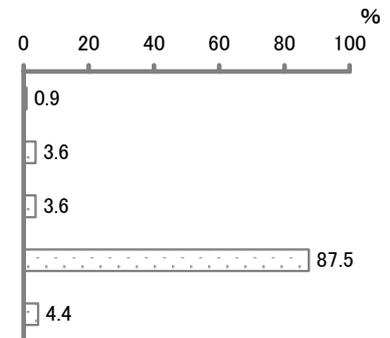
顔や名前を知っている公認スポーツ指導者がいる

知っている

名前を聞いたことがある

知らない

無回答



② 市川市スポーツ推進委員の認知度

市川市スポーツ推進委員の認知度

市川市スポーツ推進委員の認知度は、「知らない」の割合が84.1%と知っている市民は1割未満となっており、市川市公認スポーツ指導者制度とともに認知度を高めるために一層の周知を図ることが必要です。

回答者数 = 911

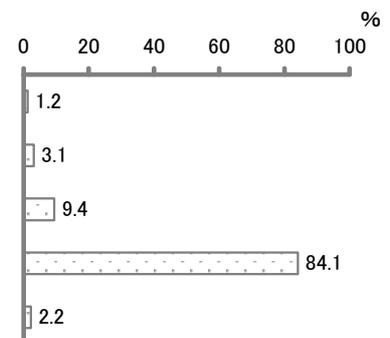
顔や名前を知っている委員がいる

知っている

名前を聞いたことがある

知らない

無回答



③ スポーツ施設への指導者の配置

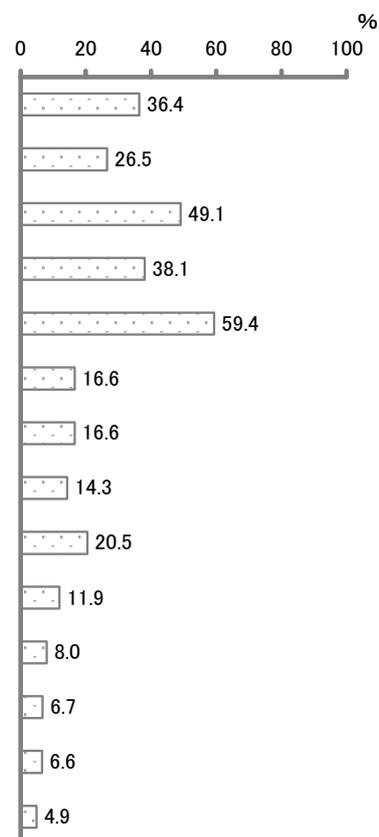
スポーツ施設にとって重要なこと

スポーツ施設にとって重要なことは、「施設のきれいさ」の割合が59.4%と最も高く、次いで「ロッカー・シャワールームの充実」の割合が49.1%、「冷暖房設備の充実」の割合が38.1%となっており、備品や屋内設備などの施設環境の充実を求める声が多くなっています。

また、指導者の配置の充実を求める声もあり、こうしたニーズに responding していくため、ハード面とソフト面の両方から施設機能の向上を図ることが求められます。

回答者数 = 911

競技スペースの広さ	36.4
指導者の配置	26.5
ロッカー・シャワールームの充実	49.1
冷暖房設備の充実	38.1
施設のきれいさ	59.4
健康やスポーツに関する情報の充実	16.6
雑談や休息ができる	16.6
喫茶・レストランコーナー	14.3
スポーツ教室やイベントの充実	20.5
観覧できるスペース	11.9
託児設備	8.0
特になし	6.7
その他	6.6
無回答	4.9



(5) スポーツ機会の創出

① 運動・スポーツを実施したい頻度

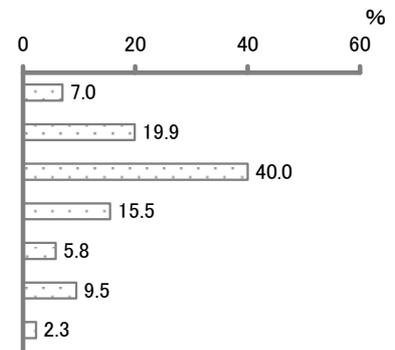
運動・スポーツを実施したい頻度

市民の運動・スポーツを実施したい頻度は、「週に1、2回」の割合が40.0%と最も高く、次いで「週に3回以上」の割合が19.9%、「月に1～3回」の割合が15.5%、「年に数回」の割合が5.8%、「ほとんどしたくない」の割合が9.5%、「無回答」の割合が2.3%となっています。

週1回以上スポーツを実施している方が36.5%との調査結果(参考資料47頁参照)に対して、実施したいと考えている市民が66.9%と、潜在的なスポーツニーズがうかがえ、実施につなげていくことが重要です。

回答者数 = 911

ほぼ毎日
週に3回以上
週に1、2回
月に1～3回
年に数回
ほとんどしたくない
無回答



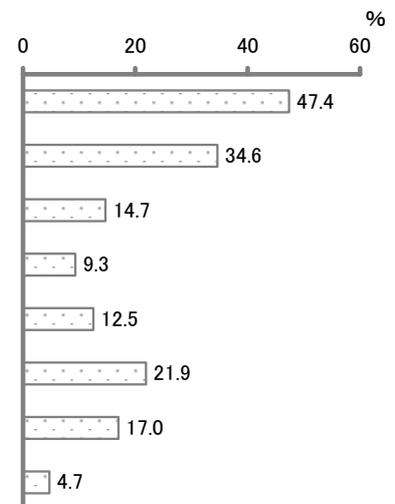
② 運動・スポーツにほとんど参加しない理由

運動・スポーツにほとんど参加しない理由

運動・スポーツにほとんど参加しない理由は、「仕事や家事、勉強等が忙しく時間が無いから」の割合が47.4%と最も高く、次いで「参加するきっかけがないから」の割合が34.6%、「運動が嫌い・苦手だから」の割合が21.9%となっており、市民のスポーツ実施率を高めるためには参加するきっかけをいかに作っていくかが重要となります。

回答者数 = 407

仕事や家事、勉強等が忙しく時間が無いから
参加するきっかけがないから
一緒に参加する仲間がいないから
運動できる場所がないから
活動組織に入りにくいから
運動が嫌い・苦手だから
その他
無回答



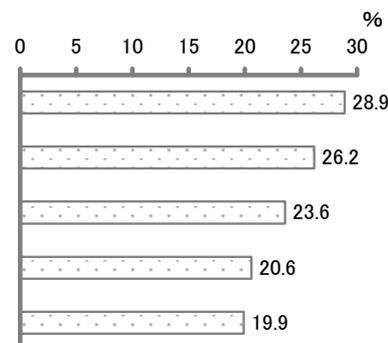
③ 今後行いたい運動・スポーツ

今後行いたい運動・スポーツ（上位5項目）

今後行いたい運動・スポーツは、「ウォーキング」の割合が28.9%と最も高く、次いで「筋力トレーニング」の割合が26.2%、「水泳」の割合が23.6%となっており、気軽にできるウォーキングのニーズの高さがうかがえます。

回答者数 = 911

ウォーキング
筋力トレーニング
水泳
ヨガ
ストレッチ



④ 今後のスポーツ行政に求めること

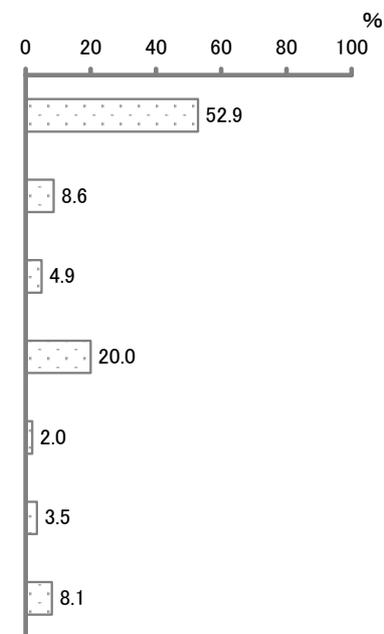
今後のスポーツ行政に求めること

今後のスポーツ行政に求めることは、「身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る」の割合が52.9%と最も高く、次いで「年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室を実施する」の割合が20.0%となっており、行政の役割としては、特にスポーツのできる場所の整備や確保が期待されていることがうかがえます。

回答者数 = 911

身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る
気軽に参加できるスポーツ団体・クラブの育成・活性化を図る
スポーツの指導や教室・イベントの運営・管理を行う人材の確保・育成を図る
年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室を実施する
スポーツに関する情報の充実や相談できる体制などの構築を進める
スポーツ競技力を強化するため、選手や指導者の育成・関連団体の連携を図る

無回答



(6) スポーツ情報の収集・提供

① 市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度

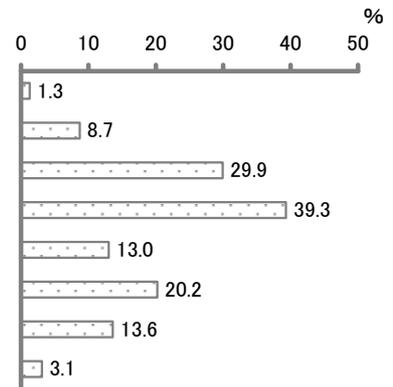
市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度

市主催のスポーツ教室やスポーツイベントの認知度は、「それらの情報を知らない」の割合が39.3%と最も高く、次いで「参加したことがない」の割合が29.9%、「興味がない」の割合が20.2%となっています。

スポーツ教室やスポーツイベントが市民に十分に知られていない現状がうかがえ、更なる周知や情報発信の充実が必要です。

回答者数 = 911

よく参加している
 参加したことがある
 参加したことがない
 それらの情報を知らない
 もっと情報を知りたい
 興味がない
 今後、参加してみたい
 無回答



② スポーツや健康づくりについて相談したいこと

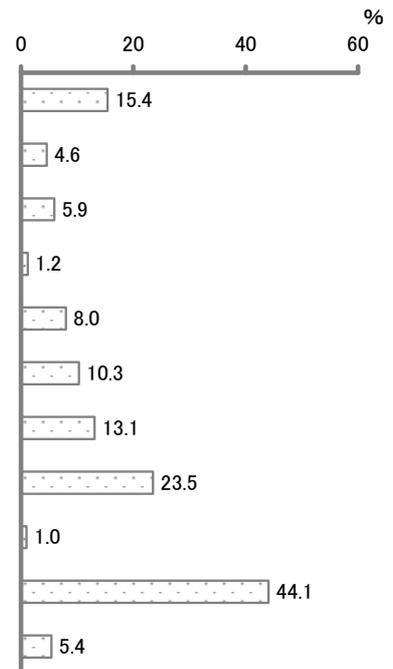
スポーツや健康づくりについて相談したいこと

スポーツや健康づくりについて相談したいことは、「特に相談したいことはない」を除くと、「健康のために効果的な運動方法」の割合が23.5%と最も高く、次いで「スポーツ活動ができる場所」の割合が15.4%となっています。

スポーツや健康づくりに関する相談への市民のニーズがうかがえ、こうした相談体制の充実を図っていくことも求められます。

回答者数 = 911

スポーツ活動ができる場所
 スポーツに関する情報
 スポーツをはじめるきっかけ
 スポーツ指導者に関する情報
 スポーツ後の体のケアの方法
 健康づくり活動を行っている場所
 健康づくりに関する情報
 健康のために効果的な運動方法
 その他
 特に相談したいことはない
 無回答



4 市川市のスポーツにおける課題

課題1 スポーツをする空間・場所の確保、充実

(1) 公共スポーツ施設の整備

本市では、野球場、サッカー場、テニスコート、体育館など、様々なスポーツ施設を整備していますが、全般的に老朽化が進んでおり、市民から再整備などの声があがっています。

また、市民アンケート調査の結果では、市の公共スポーツ施設に満足していない理由は「利用者が多く混んでいる」、「施設が古くなってきている」、「施設、場所が家から遠い」が多くを占めており、身近な施設で体を動かし、気軽にスポーツを楽しめるよう、身近な空間や場所の有効活用、交通アクセスの利便性の向上や施設的环境美化など、今後もスポーツ施設の充実が求められます。

一方、今後の人口減少などの社会情勢の中では、将来的な施設の適正な保有量も限られることから、既存施設の利用環境の改善や身近な空間や場所の有効活用等を図り、効果的に施設の充実を進めていく必要があります。

(2) 利用可能な施設、空間の有効活用

高齢化が進む中、市民の健康志向の高まりがうかがえ、健康づくりにおけるスポーツへの期待はますます高まっています。

市民アンケート調査では、市民が普段運動やスポーツをしている場所は、「自宅の近くの河川敷、公園・空き地」に次いで「民間のスポーツクラブ」が多くなっており、大学や企業のスポーツ施設や、民間のフィットネスクラブ・スポーツクラブでも、様々なスポーツ・レクリエーション活動が行われていることがうかがえます。

こうした民間・地域のスポーツの場を活用しながら、市民のスポーツ環境の充実を図ることが必要です。

その他、今後今よりもスポーツ観戦をしたいと考えている市民は多く、スポーツを観戦する場の整備や機会の確保も求められます。

- 身近な空間や場所を有効活用し、気軽にスポーツに取り組める環境づくり
- 既存施設の利用環境の改善や充実
- 大学や民間のスポーツ施設との連携による効果的な施設利用

課題2 スポーツ団体・クラブの育成

(1) 総合型地域スポーツクラブの育成

総合型地域スポーツクラブは、地域住民が自主的に運営し、子どもから高齢者まで、様々な人が参加できるクラブとなっており、従来の単一種目を行うクラブとは異なり、様々な種目のスポーツが行われ、各々が、自分の趣向やレベルにあわせたプログラムに参加することができます。こうした、総合型地域スポーツクラブは、地域住民の健康づくり、生きがいづくりを促進し、地域コミュニティの基盤となっていくことが期待されています。

総合型地域スポーツクラブの設立は徐々に進みつつあるものの、市民アンケート調査の結果では、総合型地域スポーツクラブに対する市民の認知度はまだまだ低い状況であり、スポーツクラブや団体への参加を希望している市民も一定数いることから、一層の周知を図り、拡充していく必要があります。

(2) 既存スポーツ団体・クラブの活性化

本市には、市川市体育協会加盟団体をはじめ、対象者やニーズにあった、様々な種目を行う多くのスポーツ団体・クラブが存在しています。しかし、各種イベントや事業などにおいて、これら既存スポーツ団体・クラブと総合型地域スポーツクラブとの連携が十分でない面も見られ、今後も、スポーツ団体・クラブを初めとした地域の団体、取り組みの支援を進めるとともに、連携体制の充実が必要です。

- ・総合型地域スポーツクラブの情報発信・周知
- ・スポーツ団体や地域との連携による活動の活性化や参加の推進

○本市の総合型地域スポーツクラブ ※平成28年度

市川スポーツガーデン国府台	市川スポーツガーデン塩浜	北市川スポーツクラブ
		
卓球／バドミントン／バレーボール／サッカー／テニス／バスケットボール／エアロビクス／ハワイアンフラダンス／太極拳／ランニング教室／チア／健康教室など	フットサル／ソフトバレーボール／卓球／テニス／グラウンドゴルフ／フォークダンス／ピラティス／コアストレッチ／スポーツチャンバラ／ヨガなど	サッカー／ラグビー／テニス／ソフトテニス／フットベースボール／ウォーキング

課題3 スポーツを支える人材の育成・確保

(1) スポーツ指導者の育成と確保

本市には、市民全般、高齢者、障がい者、小中学生など、様々な方を対象としたスポーツ教室があり、多くの指導者が活躍しています。一方で、指導者の高齢化や、市民のニーズの多様化などにより、スポーツ指導者の不足が指摘されています。

市公認スポーツ指導者の育成に努めていますが、市民アンケート調査をみると、市川市公認スポーツ指導者制度やスポーツ推進委員について、十分に周知されているとは言えない状況にあります。

指導者や推進委員の更なる周知を図り、市民の要望に対し適切な指導者の派遣が行われ、各指導者の活躍の場を増やしていくことが必要です。

市民アンケート調査の結果では、スポーツ施設への指導者の配置の充実を求める声もあり、スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味がわくような指導が期待されていることから、指導力の確保と資質の向上が重要となっています。スポーツを通じた地域の交流やスポーツ団体の活性化を進めるためにも、十分な資質と能力を備えたスポーツ指導者が必要です。

- ・市川市公認スポーツ指導者制度の周知
- ・指導者の活躍の場の確保
- ・指導者の育成によるスポーツに参加するきっかけづくりや団体の活性化

○市川市公認スポーツ指導者制度

平成18年度から、市川市のスポーツ振興と競技力向上及び、生涯スポーツ社会の実現を目指し、指導活動の促進と指導体制を確立するため、「市川市公認スポーツ指導者制度」を制定し、養成講習会を実施しています。毎年20名程度の指導者認定を目指しています。

講習会の流れ	受講時間・期間	主なカリキュラム
カリキュラムの受講 ↓ 検定試験 ↓ 認定	期間：約6ヶ月 受講時間： 集合講習 36時間 自宅講習 21時間	スポーツ指導者の意義と原則 フィットネストレーニング(実技) ジュニア期のスポーツの取組み 高齢者とスポーツ 地域におけるスポーツ振興など

課題4 スポーツ機会の創出

(1) イベント・教室の開催

運動やスポーツには、心身の健康の保持増進や生活習慣病予防などの効果が期待されることから、市民の一人ひとりがライフステージに応じて、主体的・継続的に運動やスポーツを楽しむことが大切です。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることが決定し、市民のスポーツに対する関心が高まることが期待されます。

こうした中、市民アンケート調査をみると、週 1 回以上スポーツをしたいと考えている人が約 7 割と、潜在的なスポーツニーズがうかがえる一方で、運動・スポーツに参加しない理由は、「参加するきっかけがないから」が多く、参加するきっかけづくりによって市民のスポーツ実施率が高まっていくことが期待できます。

そのため、市民のニーズの高いウォーキングや筋力トレーニング、水泳などを行える機会の提供が重要です。

また、スポーツを行いたくても行えない人のために、スポーツをすることを促すなど、きっかけづくりや短時間でできる運動の周知などを講じる必要があります。

(2) スポーツプログラムの開発・普及

本市では、市民全般、高齢者、障がい者、小中学生などを対象に、様々なスポーツイベントや教室が実施されています。

きっかけづくりの場となるイベント・教室については、一定の潜在ニーズが見られる中、年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室の実施が求められており、ライフステージや多様なニーズに対応した取り組みが必要です。

- ・様々な人に向けたスポーツ・運動の機会創出
- ・スポーツを行っていない人に向けた参加するきっかけづくり
- ・スポーツの意識・関心の向上

課題5 スポーツ情報の収集・提供

(1) スポーツ情報の集約、充実

市民一人ひとりのスポーツへの関心や運動能力に違いがあることから、主体的、継続的に楽しめるスポーツを推進していくため、健康づくりや初心者向けのスポーツ教室に関する幅広い情報提供が必要です。

こうした中、近年の情報化社会の進展により、市民の情報収集の手段も多様化しています。

市民アンケート調査では、様々な種目のスポーツ教室やスポーツイベントについて情報を知らない人が4割となっており、スポーツに関する情報の一元化や集約を行いながら、情報発信の更なる充実が求められます。

(2) スポーツや健康の相談体制の構築

情報化が進んだ昨今、スポーツや健康づくりについても、情報が社会に氾濫し、情報を入手しやすくなった反面、情報の受け手である市民が、正しい情報を適切に選別し活用することが困難な状況も見受けられます。

市民アンケート調査では、スポーツや健康づくりについて相談したいこととして、健康のために効果的な運動方法やスポーツ活動をできる場所など、スポーツや健康づくりに関する相談への市民の多様なニーズが見られ、スポーツや健康の相談体制の充実を図っていくことも求められます。

- ・ 様々な人に向けたわかりやすいスポーツ情報の発信・充実
- ・ 健康づくりに関するスポーツの相談体制の充実

課題6 スポーツ競技力の強化

(1) 競技力強化体制の構築

本市では、学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会を中心に、競技力の向上を目指し、競技者の育成・強化に努めています。

しかし、本市の競技スポーツの水準は県民体育大会や中学・高校の県大会等の成績を見ると、一部の競技を除き成果をあげているとは言えません。人口規模からも優秀な成績を常に維持できるように、市体育協会、種目別競技団体等と連携して強化体制を確立し競技水準の向上を推進することが求められます。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けてスポーツへの関心が高まることを活かし、学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会と連携し、小中学生の育成、選手発掘・競技力の向上に努めていくことが必要です。

- 競技力向上にむけた各競技団体との連携
- 小中学生の競技力育成や選手発掘

第3章

計画の基本的な考え方

1 基本理念

「健康都市宣言」を掲げている本市では、市民の健康づくりに積極的に取り組んでおり、その一環としてスポーツ振興を推進しています。また、青少年の心身の健全な発達、住民相互の新たな連携の促進、世代や国籍等の異なる仲間との交流の促進など、様々な場面において、スポーツの果たす役割は大きく、競技力向上やスポーツを通じた交流など多くの面でスポーツ振興に取り組んでいます。

スポーツは、体を動かすという人間の欲求に応えるとともに、心身の両面にわたり良い影響を与えます。また、スポーツを通じたコミュニティの再生、スポーツ団体やスポーツイベントを通じた人材育成、交流など、様々な場面において、スポーツの果たす役割は大きく、人生をより豊かにし、充実したものとする上で、必要不可欠なものとなっています。このため、市民が生涯にわたってスポーツに親しむことのできる環境づくりを進めることは、極めて重要な意義を有しています。

「健康」、「ふれあい（交流）」をスポーツ振興のキーワードと捉えた基本計画の考えを踏襲し、「健康で、ふれあい生まれるスポーツのまち、市川」を計画の基本理念としています。

[基本理念]

**「健康で、ふれあい生まれる
スポーツのまち、市川」**

2 計画の基本方針

本計画では、スポーツ振興によって期待される「人づくり」「組織づくり」「地域づくり」を、引き続き計画の基本方針とし、推進していきます。

人づくり

スポーツ振興により、自己実現、生きがいづくり、健全な心身の育成、競技レベルの向上といったことから、市民一人一人の人づくりを目指します。

組織づくり

スポーツ振興により、活動の場の増加や、種目の多様化を支え、人と人との交流を生む組織づくりを目指します。

地域づくり

スポーツ振興により、地域間、世代間交流の促進、コミュニティの活性化や地域イメージの向上といった地域づくりを目指します。

3 基本目標

基本理念、基本方針に基づいたスポーツ振興を推進するために、6つの基本目標を掲げます。

基本目標 1 ライフステージに応じた生涯スポーツの推進と機会の創出

それぞれの体力やライフステージ、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、だれもが、いつまでもスポーツを楽しむことができるよう、スポーツイベント・教室等の実施、スポーツプログラムの開発の検討を行います。

基本目標 2 スポーツをする空間・場所の確保、充実

スポーツ環境やニーズが変化しているなか、行政だけでなく、スポーツ関係団体、学校など様々な主体が連携・協働し、身近な地域でスポーツを楽しむことができる環境を整えていきます。また、関連計画と整合性を図りながら、スポーツ拠点の整備を検討するとともに、既存施設の積極的な有効活用を図り、身近で気軽にスポーツ活動ができる空間・場所を充実するなど、市民のニーズに応じたスポーツ情報の提供などのスポーツを楽しむ環境づくりを進めます。

基本目標 3 スポーツ団体・クラブの育成

地域住民が主体の、いつでも、どこでも、だれもが、いつまでもスポーツを楽しむことのできるシステム「総合型地域スポーツクラブ」の普及・啓発を行うとともに、クラブ創設・運営の支援と育成に取り組みます。

基本目標 4 **スポーツを支える人材の育成・確保**

市民が、生涯を通して、自己の能力・適性、興味・関心などに応じ、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツライフを構築するためには、その先導者となるスポーツ指導者の育成・確保が必要になります。

子どもから高齢者、障がい者など様々な市民のスポーツニーズに対応した指導者を育成するとともに、スポーツの推進をコーディネートする人材の育成を進めます。

基本目標 5 **スポーツの情報の収集・提供**

いつでも、どこでも、だれもが、いつまでも楽しむことのできるスポーツや気軽に始められる健康づくりの情報発信を実施し、市民のスポーツ参加意欲を高めます。また、必要としている人に情報が届くよう多様な手段を用いた情報提供に取り組みます。

基本目標 6 **スポーツ競技力の強化**

全国的なスポーツ大会、県レベルのスポーツ大会への参加を支援し、市レベルのスポーツ大会の開催や関係団体への助成を通して競技スポーツの拡大を図るとともに、ジュニア選手の発掘・育成、指導者の確保・育成、スポーツ環境の整備などにより、スポーツ競技力の強化を図ります。

4 数値目標

本計画によるスポーツ振興の効果を明確に把握できるように、定量的な指標を設定し、指標の達成を目指します。

指標 1 市民のスポーツ実施率（週1回以上）

H28年 現状値
36.5%



H33年 目標値
50.0%

指標 2 総合型地域スポーツクラブの数

H28年 現状値
3団体



H33年 目標値
4団体

指標 3 市民のスポーツクラブ・団体への加入率

H28年 現状値
12.3%



H33年 目標値
30.0%

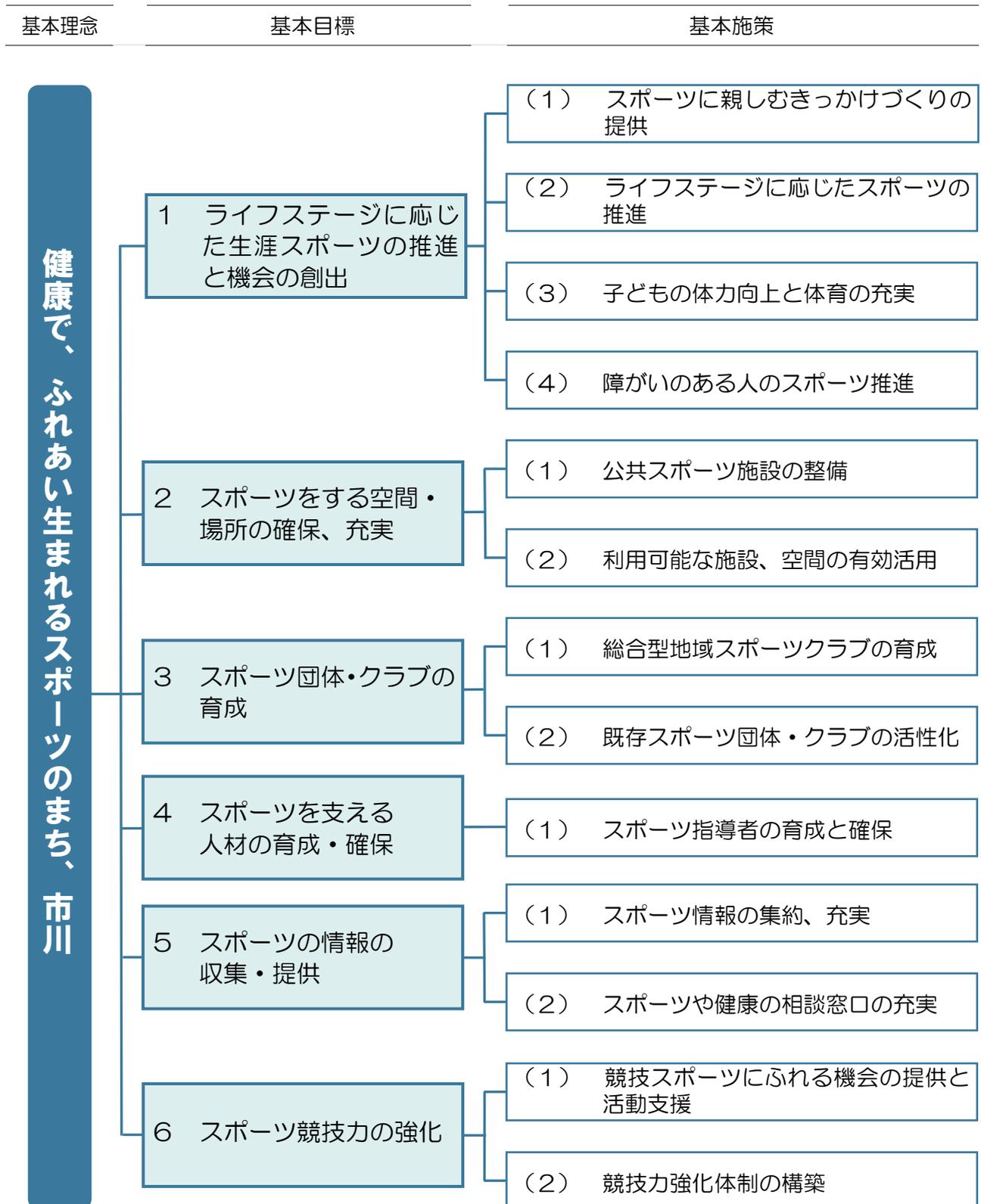
指標 4 市公認スポーツ指導者の数

H28年 現状値
289人



H33年 目標値
500人

5 計画の体系





第4章

施策の展開

基本目標 1

ライフステージに応じた生涯スポーツの推進と機会の創出

(1) スポーツに親しむきっかけづくりの提供

市民アンケート調査などから、潜在的なスポーツニーズがうかがえながらも、「参加するきっかけがないから」という理由で運動・スポーツに参加しない人が多く、参加するきっかけづくりが重要となっており、本市においても、多様なニーズに対し、スポーツをする習慣を普及させるための情報発信を行うなど、スポーツに親しむきっかけとなるよう情報発信に取り組んでいます。

今後も、市民がその生涯を通じて、気軽に楽しんでスポーツができる、スポーツについて学べる機会の提供や情報発信を行い、また、地元の選手や団体の活動状況などを、市民に紹介・PRすることにより、選手のやる気を高めるとともに、市民のスポーツ機運を盛り上げます。

方向性

- 積極的に多様なメディアを通し情報を発信していきます。
- 市民参加の拡大を図るため、教室内容の周知活動に努めます。
- 市民のニーズを捉え、スポーツを行える機会の提供に努めます。

事業名	事業内容
1 スポーツ情報の効果的な発信	スポーツ関連情報の集約や、webサイトの充実などによって、イベントや教室への参加を希望する層に効果的な発信を行っていきます。
2 多様な人に対応したスポーツ習慣のきっかけづくり	未就学児、児童、生徒、成人、子育て層、高齢者、障がい者など多様な人を対象として、効果的な情報発信などを行い、自発的にスポーツをする習慣を身につけられるよう普及促進に努めます。

(2) ライフステージに応じたスポーツの推進

本市では、幼児から高齢者まで各層にわたり、運動不足やストレス解消・体づくり・技能向上を目指して、あるいは友達や仲間との交流・家族とのふれあいの場として、だれもが気軽に参加できる多種多様なスポーツ教室やイベントを展開しています。

今後も、継続的にスポーツに取り組むことで健康の保持増進を図ることができるよう、それぞれの興味・関心に応じて積極的にスポーツ活動に取り組むことができる機会を提供するなど、スポーツの大切さを啓発するとともに、スポーツ活動への参加機会を提供し、健康の保持増進を図ります。

方向性

- 健康意識の向上に向けた健康づくりに関する事業との連携を充実させます。
- 短時間でできる運動の周知を行います。
- 年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室の実施を行います。

事業名	事業内容
1 生涯スポーツイベントの充実	現在行われている「みんなでスポーツ」「下総・江戸川ツーデーマーチ」などのイベントや市民スポーツ教室、スポーツ推進委員地区活動などについて、情報発信や活動内容を充実させていくことで、参加者の増加を図ります。
2 健康増進イベントの推進	市民の健康意識の向上を図るために、体力測定などを行うイベントの実施や、栄養指導など健康に関するアドバイスなどができる体制の構築を検討します。
3 高齢者向けのスポーツ教室の充実	健康スポーツ教室などの既存の教室の実施数増加、場所や指導者の確保、市川みんなで体操の地域拡大を行っていきます。 また、市川市公認スポーツ指導者の地域活動の活躍の場として連携できるよう検討を図ります。

○主なスポーツに関するイベント ※平成28年度

下総江戸川ツーデーマーチ／みんなでスポーツ／元旦マラソン大会／夢の教室
市川エンジョイスports／ファミリーデイキャンプ／I SG国府台スーパーコラボ／
I SG塩浜スポーツフェスタ／I SG塩浜わくわくスポーツデー／
ラグビーフェスティバル／障がい者軽スポーツ教室／健康スポーツ教室／
市民スポーツ教室 など

(3) 子どもの体力向上と体育の充実

本市では、子どもたちに向けたスポーツ教室の実施やコミュニティクラブ事業において、ハイキング、ウォークラリー、相撲、グラウンドゴルフ教室等を展開しているほか、「あそび」をキーワードにした多様な体験活動を実施しています。

今後も、親子でできるスポーツ活動を実施するなど、スポーツの楽しさや大切さを伝える機会を提供していきます。

また、学校体育の充実を図るとともに、友だちといろいろな運動が体験できる機会を提供し、子どもの体力の向上を図ります。

方向性

- 子どもがいろいろな運動を行うことができる機会を提供します。

事業名	事業内容
1 青少年向けのスポーツ教室の充実	市で既に実施している市民スポーツ教室やコミュニティクラブ事業について、市民のニーズの把握や総合型地域スポーツクラブとの連携などによって、事業の充実を図ります。

(4) 障がいのある人のスポーツ推進

障がいのある人にとってのスポーツは、残存機能の維持向上や二次的な疾病等の防止や改善、健康の維持増進という側面だけでなく、社会参加の促進に寄与するという大きな役割があり、本市でも市内の障がいのある人を対象に、軽スポーツ等を行う障がい者軽スポーツ教室を実施しています。

障がいのある人同士の交流や体力増強を目的として、障がい者スポーツイベントを実施するなど、障がいのある人が自主的かつ積極的にスポーツ活動に取り組むことができる機会を提供するとともに、障がい者スポーツに関する指導者の育成や教室開催などの推進を図ります。

方向性

- 障がい者のスポーツを体験する機会を提供します。
- 障がい者スポーツに関する情報発信の充実を進めます。

事業名	事業内容
1 障がい者スポーツの推進	障がい者のスポーツイベントや軽スポーツなどを体験する教室を開催します。障がい者と健常者が一緒になった取り組みへ展開することも検討するとともに、webサイトを充実させる等情報発信を進め、障がい者のスポーツ機会の充実を図ります。また、障がい者の視点に立った指導者の育成の推進を図ります。

基本目標 2

スポーツをする空間・場所の確保、充実

(1) 公共スポーツ施設の整備

本市では、野球場、サッカー場、テニスコート、体育館など様々なスポーツ施設整備しており、市北東部においては、テニスコートなどスポーツ施設が不足している状況でしたが、平成 26 年に市川市北東部スポーツタウン基本構想を策定し、平成 28 年度から北市川運動公園の整備を進めています。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会キャンプ地招致に向け、バリアフリー等の施設整備を進めていくことが求められています。

今後も、市民に快適なスポーツ環境を提供するために、施設の種類や稼働状況、及び老朽化の進捗状況を把握し、また市民のニーズに合った施設配置の状況を把握分析します。

スポーツ環境の整備充実を図っていくために、老朽化した既存施設や設備については、関連する計画との整合性を図りながら、優先順位を決めて、効果的な改修計画を作成していきます。また、市民のニーズに対して本市に新設や増設が必要となるスポーツ施設については、施設の適正量を踏まえ、全体的な調整を行いながら、整備方針の検討を進めます。

方向性

- 北市川運動公園の開園とともに、スポーツセンターの施設率改善に向けた検討を行います。
- 関連計画との整合を図りながら、老朽化した施設について、リニューアルや廃止等を含めた計画を検討していきます。
- 交通アクセスの利便性の向上を図る検討を行います。
- スポーツを観戦する場の整備や機会の確保を検討します。

事業名	事業内容
<p>1 スポーツ施設の新設、再整備 (継続的事業～中期的事業)</p>	<p>○新規スポーツ施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川市北東部スポーツタウン基本構想に基づき、既存の市民プールの方向性の検討及び関連整備などと整合性を図り、新規施設の整備を目指します。 ・市民のニーズに対応し、新規施設整備や既存施設の活用を検討を行います。 <p>○国府台公園周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府台公園周辺の整備については、スポーツセンターの機能を補完していくことを目的とし、市川市北東部スポーツタウン基本構想との連携を図り検討していきます。 ・スポーツセンターについては、施設や設備改修、備品類の充実を踏まえ「安全・安心」な施設として整備を進めていきます。また、施設率の改善に向けた整備を進めるとともに、施設の機能性向上、環境美化を進めます。 ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、国や県との連携を図り、必要に応じた対応を検討いたします。 <p>○塩浜市民体育館・信篤市民体育館・市川市市民プール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設や設備改修、備品類の充実を踏まえ「安全・安心」な施設として整備を進めていきます。また、施設の機能性向上、環境美化を進めます。 ・市川市北東部スポーツタウン基本構想に基づき、市民プール運営の方向性を検討していきます。 ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、国や県との連携を図り、必要に応じた対応を検討いたします。 <p>○公園内等スポーツ施設のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の公園等に点在するスポーツ施設について、計画的な改修を目指していきます。 <p>○いちかわ市民キャンプ場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習ゾーンとして再整備することを目指しながら、既存の施設の「安全・安心」を重視した再整備の計画を検討いたします。 <p>○福栄スポーツ広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催や女子ソフトボール世界選手権大会に向けて、国や県との連携を図り、施設のバリアフリー化など必要に応じた対応を検討いたします。
<p>2 地域空間の利用・活用 (継続的事業～中期的事業)</p>	<p>○スポーツ広場等の用地の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民有地を借り受けて使用しているスポーツ広場等を将来的にも利用できるように、地権者と調整協議し、用地の保持に努めるとともに、既存施設の有効的な活用を検討いたします。 <p>○国分川調節池上部活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代間の交流が深められるようイベントの実施や、自然に囲まれながら散策・ウォーキングできる空間としての活用を進めます。

(2) 利用可能な施設、空間の有効活用

本市では、現在市内 55 校において、体育館、運動場、プールの開放等を、市内の小中学校、義務教育学校及び特別支援学校で行っており、平成 27 年度には文化活動の利用を含めて、利用延べ人数は約 1,714 千人となっています。

また、こうした学校開放等を用いて、市が委嘱する市川市スポーツ推進委員が、市内 13 の地区において平日夜や休日に軽スポーツ等を行う地区活動を実施しています。

市民のニーズを踏まえ、未利用地等を活用し、市民がより身近な場所で気軽にスポーツを楽しめるように、身近なスポーツ環境の整備、充実を図るとともに、地域の学校体育施設の活用を効率的に行えるよう、学校体育施設開放事業の運営について検討します。

また、将来的な公共スポーツ施設の適正な保有量を踏まえ、民間との連携を図り、施設の有効活用や効果的な運営体制等の検討を進めます。

方向性

- 学校施設開放について、登録団体の利用状況を精査し、有効に活用できるよう検討を進めます。
- 公共施設の効果的、効率的な運営体制の検討を進めます。
- 身近な場でウォーキングなどに取り組める場を確保します。

事業名	事業内容
1 学校施設の有効活用	学校施設開放のより効率的な運営を目指し、利用状況の見直しや有効的な活用など運用方法や管理体制の検討を行います。また、必要に応じて県立高校等の連携についても、検討していきます。
2 公共スポーツ施設の使いやすさの向上	公共スポーツ施設の運用面の改善を図ります。利用時間、予約方法、設備の備品などの改善を検討し、施設の使いやすさを向上させていきます。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、国や県との連携を図り、必要に応じた対応を検討いたします。
3 大学や企業のスポーツ施設との連携	大学や企業のスポーツ施設について、施設概要や利用実態を把握し、効果的な施設利用の拡大を図るとともに、包括協定を結んでいる大学との連携を進めます。また、施設の効果的、効率的な運営体制の検討を行います。
4 身近な空間や場所の有効活用	歩いて楽しいウォーキングコースの設定やマップの作成、軽スポーツ等ができる公共施設の空きスペースの探索など、身近な空間や場所の有効活用について検討します。 また、気軽に立ち寄り、スポーツが実施できる施設の整備をや利用機会拡大のための情報発信を進めます。
5 子どもの居場所づくりの検討	公共施設や公園、広場などに、子どものためのスポーツ指導者の派遣やスポーツに関連するプログラムの提供などを体系的に行うことにより、子どもがスポーツを楽しめる場所を増やすことを検討します。
6 民間スポーツ施設との連携	民間スポーツ施設の利用促進を行うなど連携を図り、市民の健康増進を進めます。

基本目標 3

スポーツ団体・クラブの育成

(1) 総合型地域スポーツクラブの育成

本市では、平成 18 年に国府台地区、平成 19 年に塩浜地区で、総合型地域スポーツクラブが設立され、平成 29 年 1 月に市内 3 番目となる総合型地域スポーツクラブ「北市川スポーツクラブ」が設立されています。

市民のだれもがスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。

また、総合型地域スポーツクラブの認知度を高めるため、広報活動を強化します。

方向性

- 総合型地域スポーツクラブの周知を図ります。
- 総合型地域スポーツクラブの運営や指導者の育成を支援します。

事業名	事業内容
1 総合型地域スポーツクラブの育成	既存の総合型地域スポーツクラブでは、地域住民主体のクラブ運営をサポートし、地域・会員相互のコミュニケーションの活性化、会員数の増加、プログラムの充実・向上に向け支援をしていきます。
2 総合型地域スポーツクラブの設立	新規クラブ設立に向け、準備を進めるとともに、新規設立クラブが、クラブとして自立し、自主運営できるよう多方面から支援を行います。また、個々のクラブの自主性を尊重しながら、各クラブ相互の関係を強化して、本市の総合型地域スポーツクラブの大きな特徴として育成していきます。
3 クラブ運営者や指導者の育成	クラブを運営していくスタッフの育成を図ります。またスポーツ指導者の資格保持者や市川市公認スポーツ指導者、スポーツ推進委員などから指導者の発掘を行うことや、クラブ会員を指導者として育成していきます。

(2) 既存スポーツ団体・クラブの活性化

本市には、様々な種目の、対象者やニーズにあった、多くのスポーツ団体・クラブが存在しています。

既存スポーツ団体・既設立クラブに対し、より多くの市民が参加できるよう、必要に応じてクラブ運営に関する指導・助言を行います。

また、スポーツクラブ・団体の活動内容などについて、市民にPRします。

方向性

- スポーツ団体・クラブとの協力体制の充実を図ります。
- スポーツ団体・クラブを初めとした地域の団体、取り組みの支援を進めます。

事業名	事業内容
1 総合型地域スポーツクラブとの連携	総合型地域スポーツクラブと既存スポーツ団体・クラブを連携させ、総合型地域スポーツクラブの充実を目指します。
2 競技大会の充実、参加の推進	市川市体育協会と各加盟団体による市民体育大会の充実を進める他、県民体育大会等の競技大会への参加を促進します。
3 活動拠点の確保の支援	公共スポーツ施設の整備、学校施設開放の有効活用、施設の情報提供等により、活動拠点の確保を支援していきます。
4 部活動と地域の連携	競技レベル向上のために、学校の部活動において、競技レベルの高い学校の指導者や生徒を指導者として地域のクラブに派遣し交流を推進します。 また、学校の推薦を受けた地域の指導者を外部指導者として仰ぐ体制を継続していきます。

基本目標 4

スポーツを支える人材の育成・確保

(1) スポーツ指導者の育成と確保

現在市では、市民全般、高齢者、障がい者、小中学生など、様々な方を対象としたスポーツ教室があり、多くの指導者が活躍しています。

また、市のスポーツ振興と競技力向上及び、生涯スポーツ社会の実現を目指し、指導活動の促進と指導体制を確立するため、「市川市公認スポーツ指導者制度」を制定し、養成講習会を実施しており、平成 28 年度までの 10 年間で 343 名が受講し、289 名を市公認スポーツ指導者として認定しています。

それぞれのスポーツ団体が主体的に指導者の育成・確保に取り組めるように、支援するとともにスポーツ団体と連携して、新たな指導者の育成・確保に努めていきます。

また、各ボランティア団体と連携や企業の地域貢献としてのボランティア活動も活用しながら、スポーツボランティアの確保に努めます。

方向性

- 市川市公認スポーツ指導者制度やスポーツ推進委員についての周知を図ります。
- 市民の要望に対し適切な指導者を派遣するなど、活躍の場を増やしていきます。
- 十分な資質と能力を備えたスポーツ指導者を育成します。

事業名	事業内容
1 市川市公認スポーツ指導者制度の推進	「市川市公認スポーツ指導者制度」を本市の基本的なスポーツ指導者の資格とし、既存スポーツ指導者や新たな人材に資格取得のPRを行い、スポーツ指導者の発掘・育成を行います。
2 活躍の場の確保	スポーツ指導者が、総合型地域スポーツクラブ、学校の課外活動、市のスポーツイベント、教室といった様々なスポーツ振興の場に適切に派遣されるように、指導者の派遣制度を整備するとともにその情報発信を進めていきます。
3 生涯スポーツ指導者の育成	だれもが気軽に楽しめる生涯スポーツ、新たなスポーツ種目や軽スポーツなど推進のために、様々な対象者に対応した指導者育成研修会の開催を推進します。
4 総合型地域スポーツクラブ中核スタッフの育成	総合型地域スポーツクラブの立ち上げや運営には、経営(マネジメント)や連絡調整(コーディネーション)の能力を持った人材が必要となるため積極的にクラブコーディネーターに関する養成講習会等への参加を促すなど、計画的に発掘・養成を進めていきます。
5 スポーツボランティアの発掘・育成・確保	総合型地域スポーツクラブのスタッフやイベント・スポーツ教室の開催には、多くのボランティアとなる人が必要となります。定期的に講習会を行うなど、市民の意識向上を図り、スポーツボランティアの発掘・育成・確保を促進していきます。

基本目標 5

スポーツの情報の収集・提供

(1) スポーツ情報の集約、充実

現在市では、スポーツ情報の発信として、インターネットからスポーツ施設の概要の閲覧や、スポーツ施設の予約を行うことができます。

スポーツ施設の予約は、各登録者や団体がテニスコートや野球場、体育館などの施設をインターネットや市内に点在する公共施設の情報端末から 24 時間予約が可能となっています。

今後は、市民がよりスポーツイベントの情報を収集しやすくするため、広報紙や市ホームページにより、スポーツイベントの情報を提供するとともに、より利便性を高めるホームページの改善に取り組みます。

また、Web 検索などによって、スポーツ施設の情報やイベント情報などが誰にでもすぐ分かるようにしていきます。

方向性

- 積極的に多様なメディアを通し情報を発信していきます。
- 関連各課と連携を図り、ホームページの案内における情報の一元化や集約を行います。
- 健康づくりや初心者向けのスポーツ教室に関する幅広い情報提供を行います。

事業名	事業内容
1 スポーツ関連情報の集約・web サイトの充実	Web サイトの一元化や充実を図り集約した情報を提供していきます。 高齢者、青少年、障がい者、子育て支援など関連部署の情報／スポーツ関係団体の概要と活動予定／各体育施設の利用状況／各競技の試合結果／年間行事予定／生涯スポーツ活動やレクリエーション活動への参加と呼びかけ／スポーツ相談／スポーツ指導者

(2) スポーツや健康の相談窓口の充実

スポーツの相談体制として、各種スポーツ教室・体育行事等の指導者などがその役割を担っていますが、相談内容が特定の種目やスポーツに限定されているとともに、このような相談の場が市民に十分に周知されていない現状にあります。

医師会や保健センターなどの各種保健医療関係機関・団体と連携し、医事・栄養相談活動を行うなど、健康づくり・体力づくりに関する相談窓口の充実に努めます。

方向性

- スポーツや健康の相談窓口の充実・連携を図ります。

事業名	事業内容
1 相談窓口の充実	スポーツ、健康、介護予防などスポーツ活動やスポーツを通じた健康づくりに関する市民の様々な相談に対応するため、スポーツ相談の役割を担っている人材、関連部署と連携し、相談窓口の充実を図ります。
2 運動療法や運動処方への展開	市内の医師会と連携をとり病後の運動療法（リハビリ）や、各個人の要望に沿った運動処方の作成などを検討していきます。

基本目標6 スポーツ競技力の強化

(1) 競技スポーツにふれる機会の提供と活動支援

現在市では、小中学生を対象に、サッカー、卓球等の海外遠征が行われており、こうしたスポーツを通じた交流は、市内の児童・生徒の国際性を高めることにつながり、スポーツ振興及び国際競技力の向上が期待されます。

トップレベルの試合や大会などを誘致、開催し、競技スポーツの充実を図るとともに、市民のスポーツへの関心や意欲を高めます。

方向性

- 小中学校体育連盟と連携し選手の育成・競技力の向上に努めます。
- 市体育協会、種目別競技団体等と連携して強化体制を確立し競技水準の向上に努めます。

事業名	事業内容
1 国内外のスポーツ交流の推進	小中学生を対象に、サッカー、卓球等の海外遠征を行います。青少年の競技力の強化、見識の広がりを目的としており、今後も継続し支援していきます。

(2) 競技力強化体制の構築

競技力の向上については、体育協会加盟団体が自らの団体の指導の他に学校で指導を行い、選手の育成・強化に努めるとともに、各種競技の市民スポーツ教室の開催により、小中学生の育成、選手発掘につなげています。

また、指導者の養成においても、スポーツ指導者の概要を取り扱う講義だけでなく、トレーニング論やスポーツに関する医学的知識に関する科目を設けたトレーニング方法の講習を行うなど、専門的な部分も取り扱った講習会を実施しています。

今後は更に、小学生・中学生に着目した育成強化に取り組むとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の出場を目指しているアスリートに対して支援するなど、アスリートの育成や支援に積極的に取り組んでいきます。

方向性

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組みと合わせて競技力強化体制の検討を行います。
- 学校、企業や、地域スポーツクラブまた各競技団体を総括する体育協会と連携し、小中学生の育成、選手発掘・競技力の向上に努めます。

事業名	事業内容
1 優れた素質を有する選手（ジュニア選手）の発掘・育成	各競技団体が中・長期的な観点に立って、選手として適正のある者の早期発見と継続的な育成のため、指導体制の向上など総合的な計画を検討します。また、ジュニア期(小中学生)から良質の環境の中で一貫した指導が行われるよう努めます。
2 指導者の養成・確保とスポーツ医・科学の推進	指導者の高齢化や、質的、量的にも指導者が不足しており、市公認スポーツ指導者養成講習会などを通じて指導者の養成・確保に務めます。 また、競技力の向上を目指すために、選手のトレーニングやコーチングにスポーツ医・科学の知識を取り込んだ、より専門的な指導者の養成・確保に努めます。
3 スポーツ拠点施設の整備・充実	市民に高いレベルの競技スポーツを目の当たりに提供するため公式的な大会が開催できる総合的な運動施設の整備・充実を検討します。
4 スポーツ関係団体等の整備・強化	スポーツ振興の中核である体育協会の指導・強化体制を整備するとともに、強化主体である競技団体と学校・地域・企業が連携して選手の育成・強化に努めます。



第5章

計画の推進体制

1 計画の推進体制

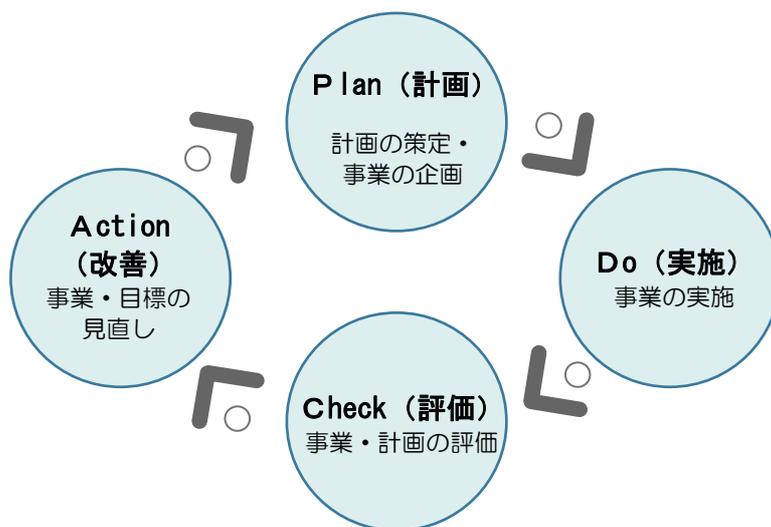
関係各課が、市民、スポーツ関連団体、スポーツ指導者、専門家（スポーツ、医療など）、民間企業などと、連携、意見聴取、協力支援の体制を構築し、各施策、具体的な施策を実施していくことによって、本計画の基本目標、計画の指標の達成に努めます。

また、目標の達成に必要な具体的な取組を明らかにし、市民のニーズや時代の変化等に柔軟に対応することを目的として、本計画に基づく事業計画を作成します。危険性や緊急性、他の事業と複合的に行うことでの効果の高さなどから優先順位を付け、効率的な推進を図っていきます。

2 計画の評価と進捗管理

事業計画は、期間内であっても必要に応じて、市川市スポーツ推進審議会に諮問し、計画の目標、指標、施策の見直しを行います。

さらに、社会情勢の変化やニーズの変化に伴う新しい課題に対応するため、計画に位置づけられる具体的事業については、各担当課が、PDCA サイクルに基づき、取り組みの実施状況について点検や評価を行い、取り組みを見直しながら効果的な計画となるように努めていきます。





参考資料

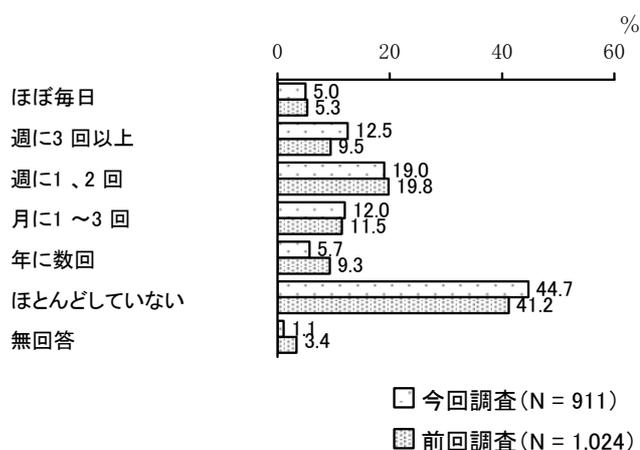
1 スポーツに関するアンケート調査結果

(1) スポーツ・レクリエーションの実施状況と意向について

問1 あなたは、普段どれくらいスポーツ・レクリエーションをしていますか。
(1つに○)

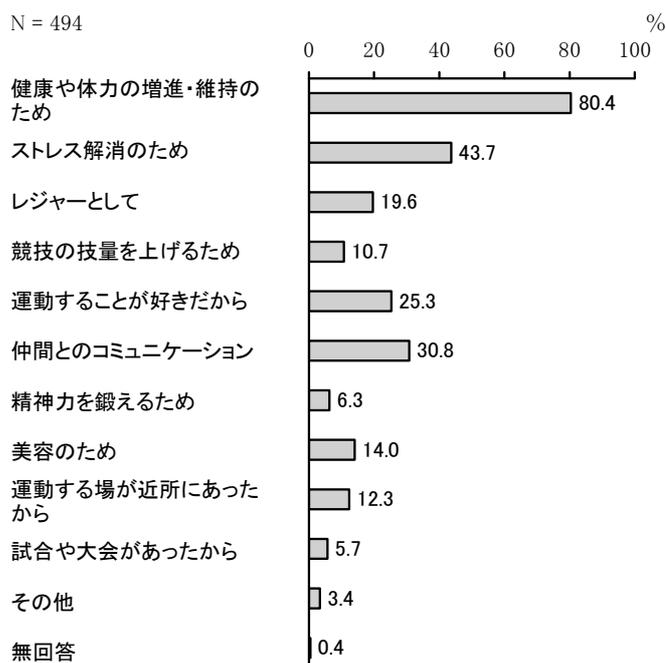
「ほとんどしていない」の割合が44.7%と最も高く、次いで「週に1、2回」の割合が19.0%、「週に3回以上」の割合が12.5%となっています。

前回調査と比較すると、週に1回以上スポーツをしている人は1.9ポイントとわずかに増加しています。また、「ほとんどしていない」については、3.5ポイント増加しています。



問1-1 あなたが運動・スポーツをするのはどのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

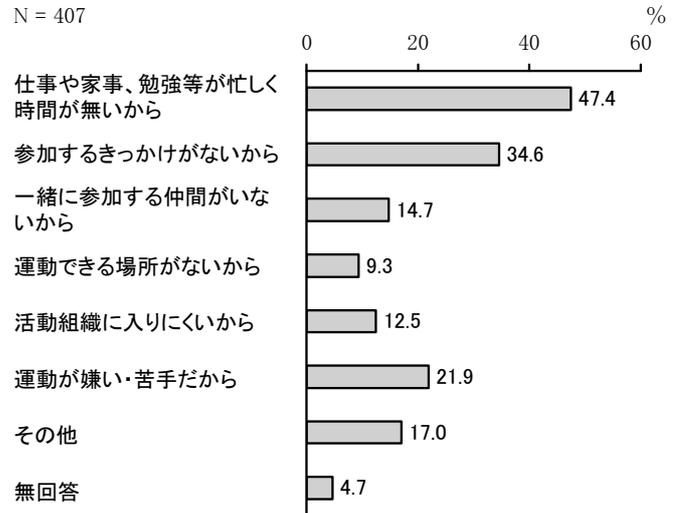
「健康や体力の増進・維持のため」の割合が80.4%と最も高く、次いで「ストレス解消のため」の割合が43.7%、「仲間とのコミュニケーション」の割合が30.8%となっています。



問1-2 あなたが運動・スポーツにほとんど参加しない理由はどのようなものですか。
(あてはまるものすべてに○)

「仕事や家事、勉強等が忙しく時間が無いから」の割合が47.4%と最も高く、次いで「参加するきっかけがないから」の割合が34.6%、「運動が嫌い・苦手だから」の割合が21.9%となっています。

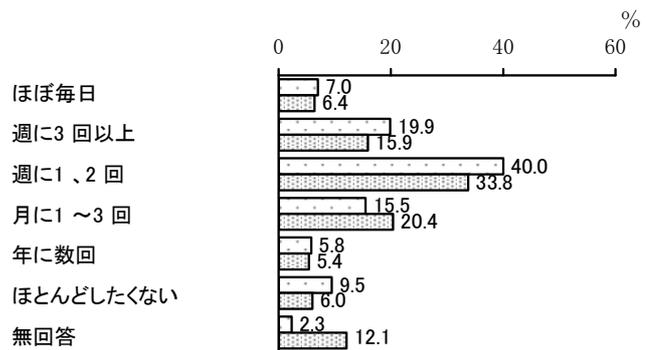
N = 407



問2 あなたは、今後、どれくらい運動やスポーツをしたいと考えますか。(1つに○)

「週に1、2回」の割合が40.0%と最も高く、次いで「週に3回以上」の割合が19.9%、「月に1~3回」の割合が15.5%となっています。

前回調査と比較すると、週に1回以上運動をする割合が10.8ポイント高くなっています。



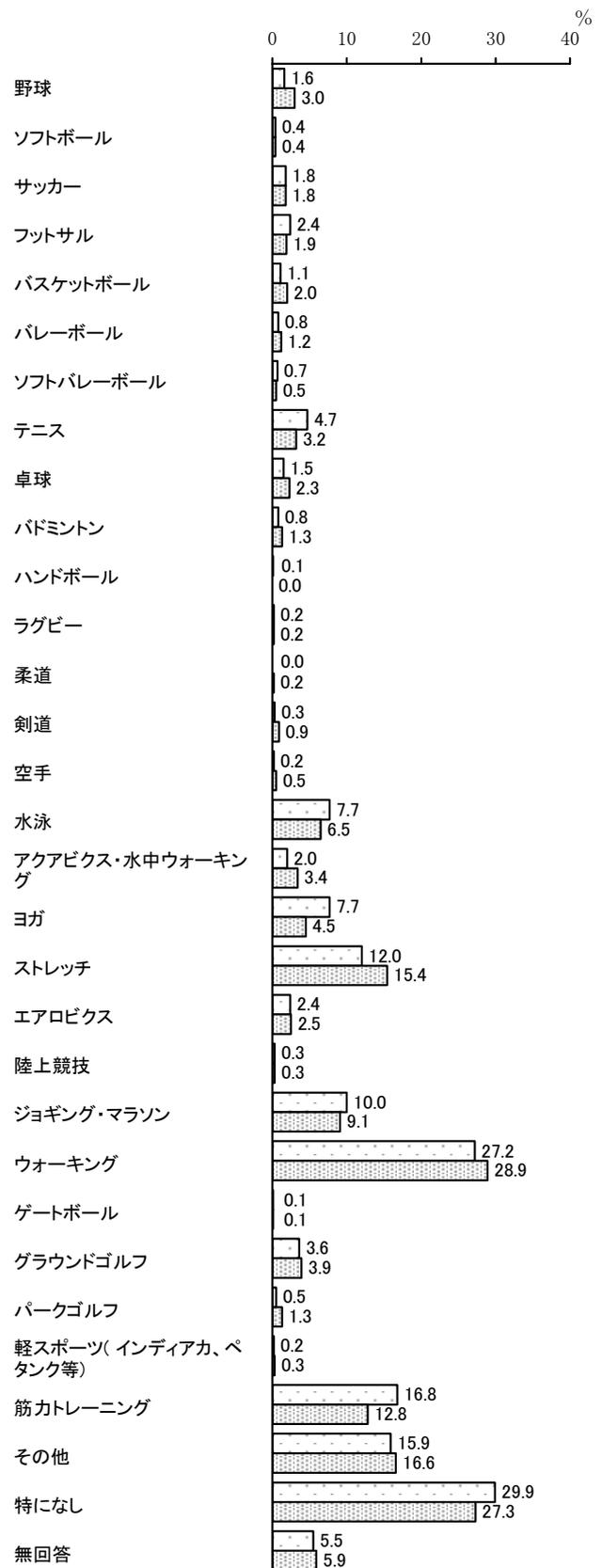
□ 今回調査 (N = 911)
▨ 前回調査 (N = 1,024)

問3 あなたは現在どのような運動・スポーツを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特になし」の割合が29.9%と最も高く、次いで「ウォーキング」の割合が27.2%、「筋力トレーニング」の割合が16.8%となっています。

前回調査と比較すると、「ヨガ」「筋力トレーニング」がわずかですが高くなっています。

□ 今回調査(N = 911)
■ 前回調査(N = 1,024)

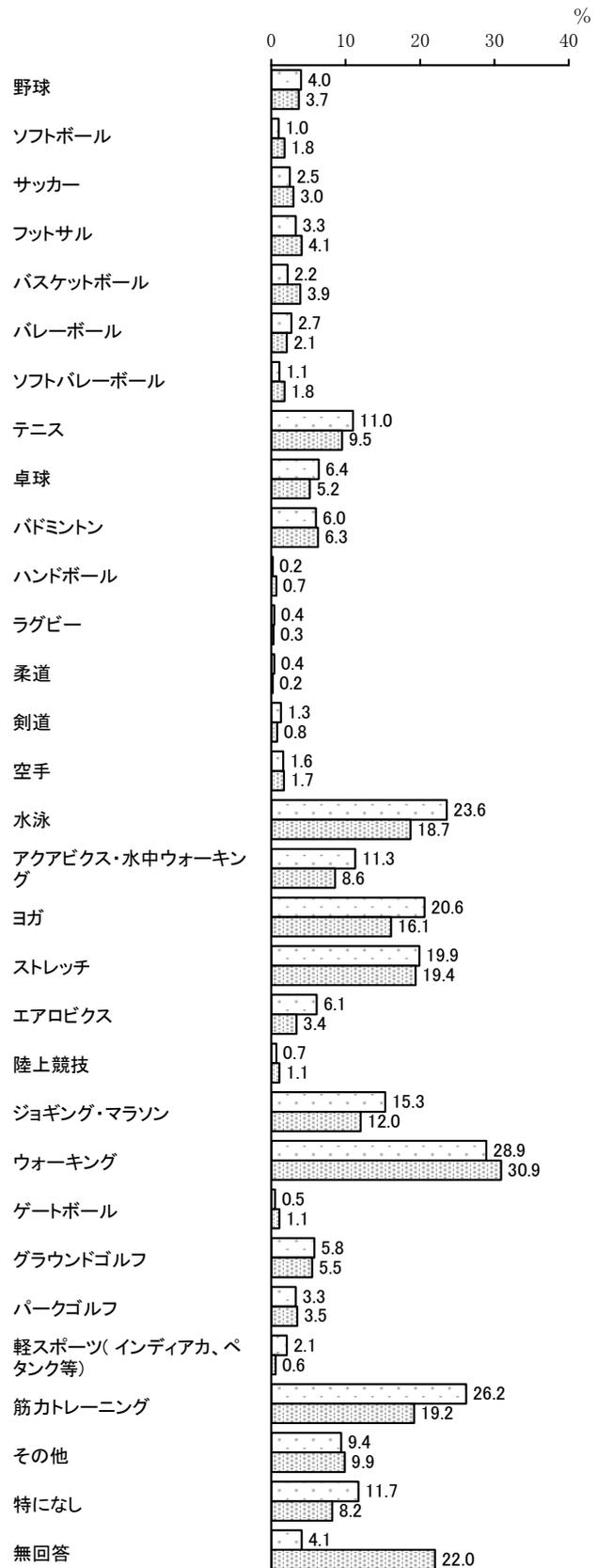


問4 あなたは今後どのような運動・スポーツをしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「ウォーキング」の割合が28.9%と最も高く、次いで「筋力トレーニング」の割合が26.2%、「水泳」の割合が23.6%となっています。

前回調査と比較すると、「筋力トレーニング」が7.0ポイント、「水泳」は4.9ポイント、「ヨガ」は4.5ポイント増加しています。

□ 今回調査(N = 911)
■ 前回調査(N = 1,024)

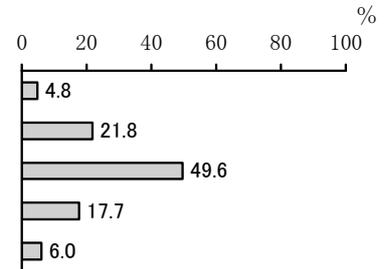


問5 スポーツの競技大会等について、あなたがあてはまる項目をお選びください。
(1つに○)

「興味がない」の割合が49.6%と最も高く、次いで「参加したことがある」の割合が21.8%、「今後、参加してみたい」の割合が17.7%となっています。

N = 911

よく参加している
参加したことがある
興味がない
今後、参加してみたい
無回答

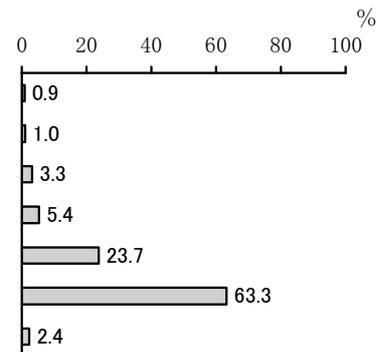


問6 あなたは、普段どれくらいスポーツ観戦をしていますか。(1つに○)

「ほとんどしていない」の割合が63.3%と最も高く、次いで「年に数回」の割合が23.7%となっています。

N = 911

ほぼ毎日
週に3回以上
週に1、2回
月に1～3回
年に数回
ほとんどしていない
無回答

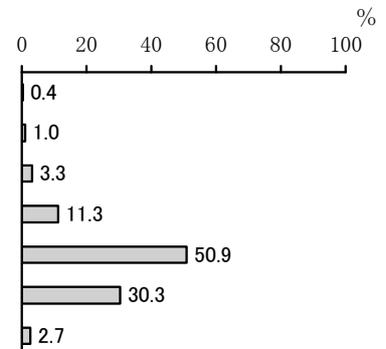


問7 あなたは、今後スポーツ観戦をしたいと思いますか。(1つに○)

「年に数回」の割合が50.9%と最も高く、次いで「観戦したいと思わない」の割合が30.3%、「月に1～3回」の割合が11.3%となっています。

N = 911

ほぼ毎日
週に3回以上
週に1、2回
月に1～3回
年に数回
観戦したいと思わない
無回答

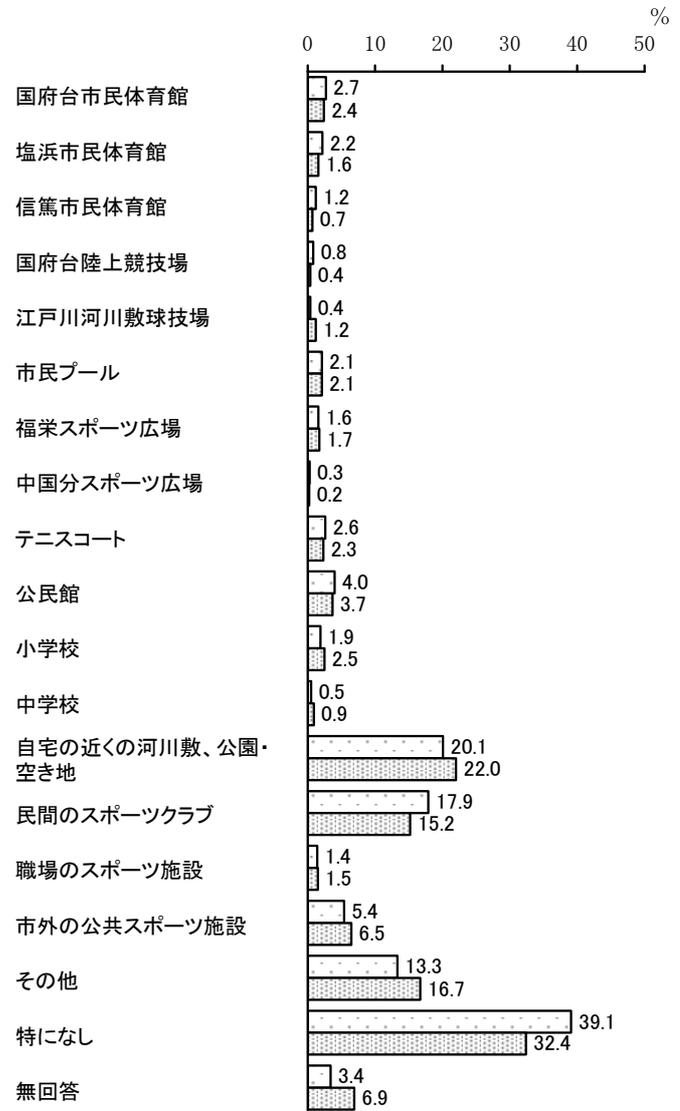


(2) スポーツ施設について

問8 あなたは普段どこで運動やスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「特になし」の割合が39.1%と最も高く、次いで「自宅の近くの河川敷、公園・空き地」の割合が20.1%、「民間のスポーツクラブ」の割合が17.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はありません。



□ 今回調査 (N = 911)

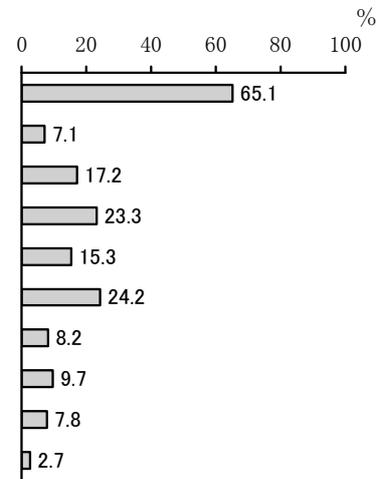
■ 前回調査 (N = 1,024)

問9 あなたがその施設、場所を利用している理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「自宅に近い」の割合が65.1%と最も高く、次いで「仲間がいる」の割合が24.2%、「使用料が安い・無料である」の割合が23.3%となっています。

N = 524

自宅に近い
職場、学校に近い
施設が充実している
使用料が安い・無料である
指導者がいる
仲間がいる
スポーツ教室・講座がある
交通の便が良い
その他
無回答

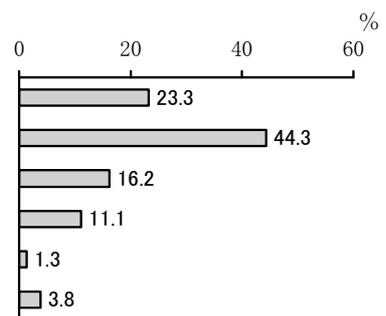


問10 あなたは、その施設、場所に満足していますか。(ひとつに○)

「満足している」と「ほぼ満足している」をあわせた“満足している”の割合が67.6%、「あまり満足していない」と「全く満足していない」をあわせた“満足していない”の割合が12.4%となっています。

N = 524

満足している
ほぼ満足している
どちらでもない
あまり満足していない
全く満足していない
無回答

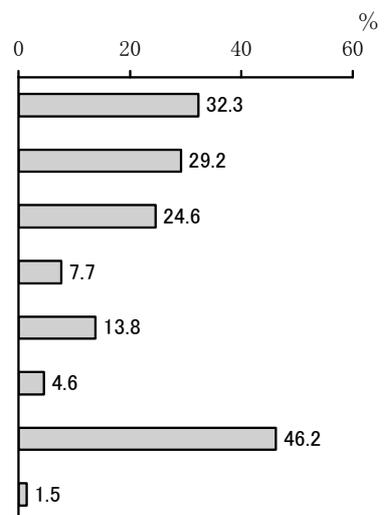


問10-1 その施設、場所に満足していない理由はどのようなものですか。
(あてはまるものすべてに○)

「利用者が多く混んでいる」の割合が32.3%と最も高く、次いで「施設が古くなってきている」の割合が29.2%、「施設、場所が家から遠い」の割合が24.6%となっています。

N = 65

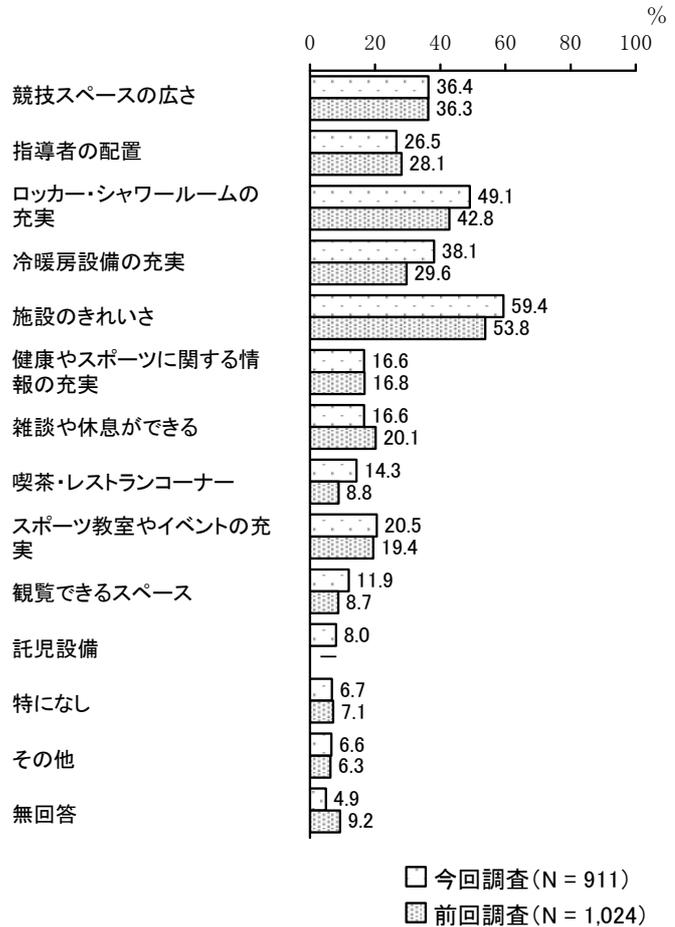
利用者が多く混んでいる
施設が古くなってきている
施設、場所が家から遠い
利用時間が限定されている
ロッカー・シャワールームがない
託児設備がない
その他
無回答



問11 あなたがスポーツ施設にとって重要だと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「施設のきれいさ」の割合が59.4%と最も高く、次いで「ロッカー・シャワールームの充実」の割合が49.1%、「冷暖房設備の充実」の割合が38.1%となっています。

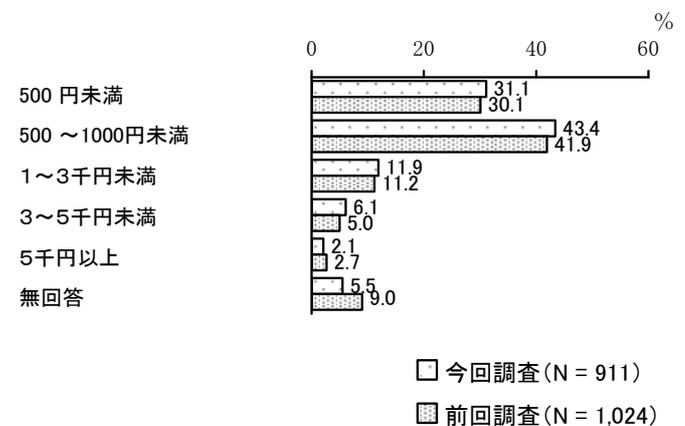
前回調査と比較すると、「ロッカー・シャワールームの充実」「冷暖房設備の充実」「施設のきれいさ」「喫茶・レストランコーナー」が高くなっています。



問12 あなたがスポーツ施設を利用するにあたり、どの程度の費用負担が適当だと思いますか。(ひとつに○)

「500～1000円未満」の割合が43.4%と最も高く、次いで「500円未満」の割合が31.1%、「1～3千円未満」の割合が11.9%となっています。

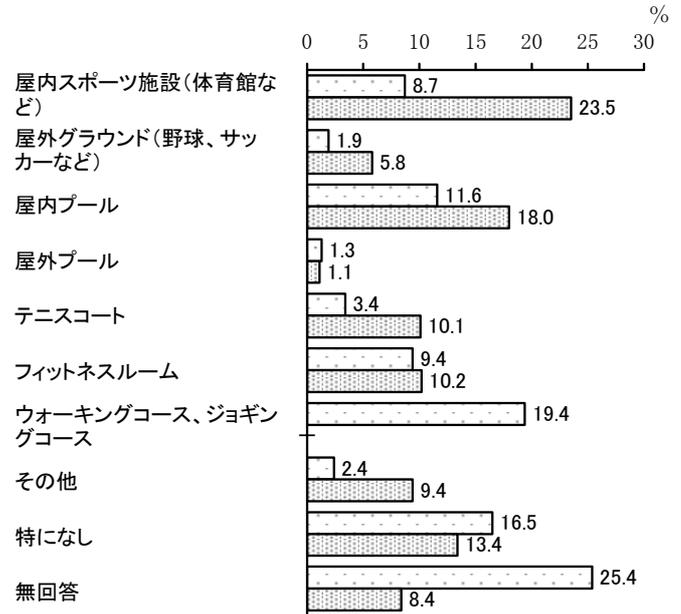
前回調査と比較すると、大きな差異はありません。



問 13 今後、充実してほしいスポーツ施設はありますか。(ひとつに〇)

「ウォーキングコース、ジョギングコース」の割合が19.4%と最も高く、次いで「特になし」の割合が16.5%、「屋内プール」の割合が11.6%となっています。

前回調査と比較すると、「屋内スポーツ施設（体育館など）」が14.8ポイント減少しています。



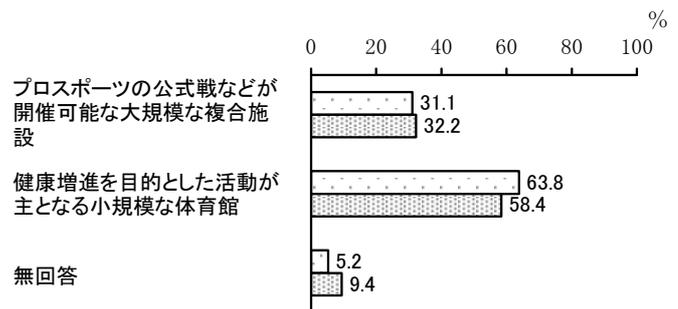
□ 今回調査 (N = 911)
 ■ 前回調査 (N = 1,024)

(3) 今後のスポーツ施設のあり方について

問 14 今後、市内に新しい体育館を設置する場合、どちらが望ましいと思いますか。(ひとつに〇)

「健康増進を目的とした活動が主となる小規模な体育館」の割合が63.8%、「プロスポーツの公式戦などが開催可能な大規模な複合施設」の割合が31.1%となっています。

前回調査と比較すると、「健康増進を目的とした活動が主となる小規模な体育館」が5.4ポイント増加しています。

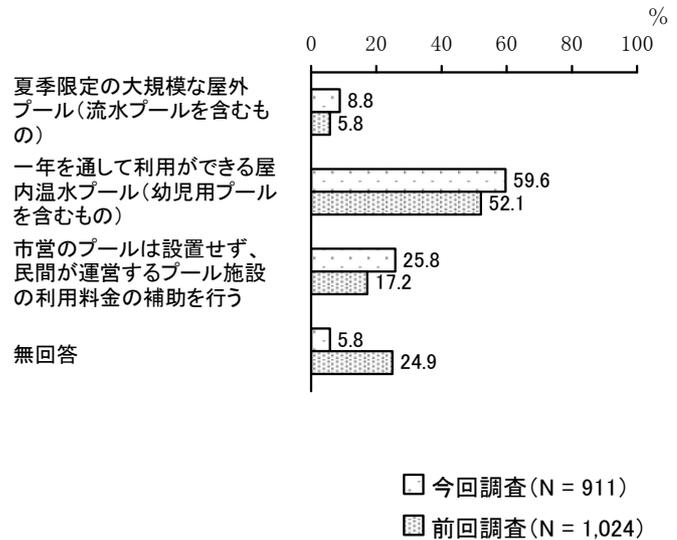


□ 今回調査 (N = 911)
 ■ 前回調査 (N = 1,024)

問 15 今後、市営のプールを設置・運営する場合、いずれが望ましいと思いますか。
(ひとつに○)

「一年を通して利用ができる屋内温水プール（幼児用プールを含むもの）」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「市営のプールは設置せず、民間が運営するプール施設の利用料金の補助を行う」の割合が 25.8%となっています。

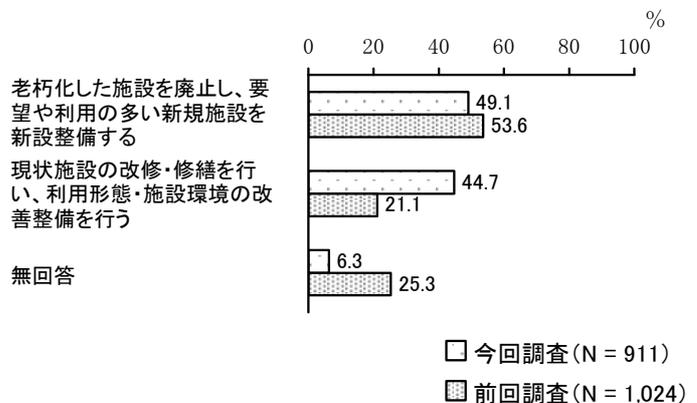
前回調査と比較すると、「市営のプールは設置せず、民間が運営するプール施設の利用料金の補助を行う」が 8.6 ポイント増加しています。



問 16 今後、スポーツ施設の整備について、どちらが望ましいと思いますか。
(ひとつに○)

「老朽化した施設を廃止し、要望や利用の多い新規施設を新設整備する」の割合が 49.1%、「現状施設の改修・修繕を行い、利用形態・施設環境の改善整備を行う」の割合が 44.7%となっています。

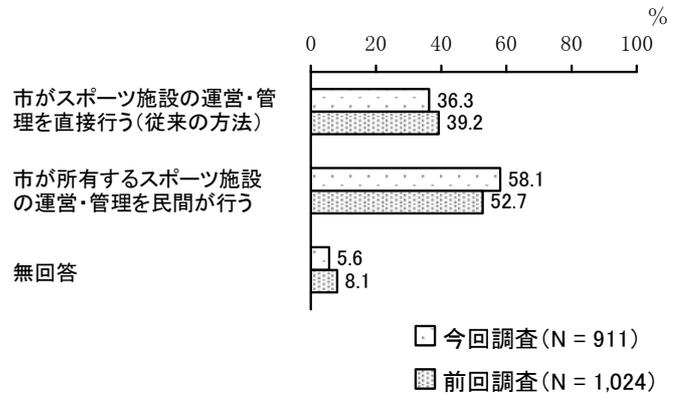
前回調査と比較すると、「現状施設の改修・修繕を行い、利用形態・施設環境の改善整備を行う」が 23.6 ポイント増加しています。



問 17 今後、スポーツ施設を管理する方法として、どちらが望ましいと思いますか。
(ひとつに○)

「市が所有するスポーツ施設の運営・管理を民間が行う」の割合が58.1%、「市がスポーツ施設の運営・管理を直接行う（従来の方法）」の割合が36.3%となっています。

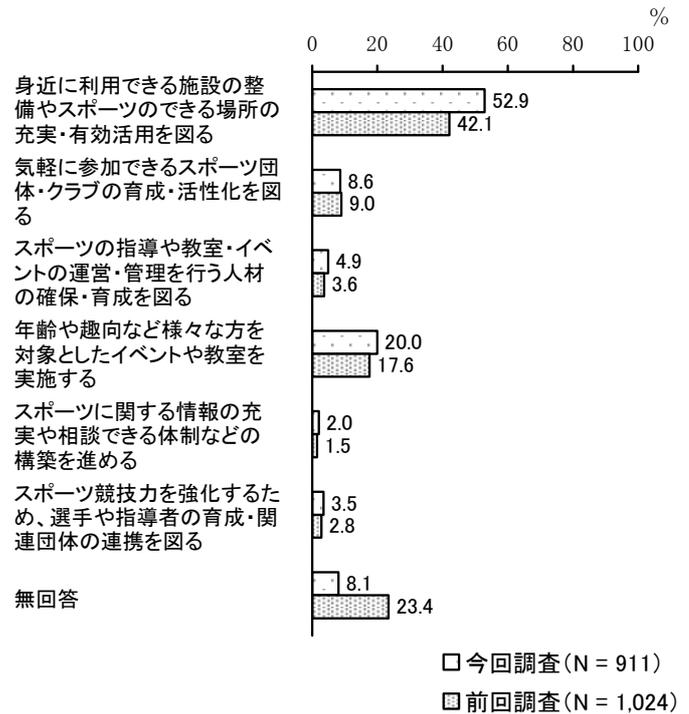
前回調査と比較すると、「市が所有するスポーツ施設の運営・管理を民間が行う」が5.4ポイント増加しています。



問 18 今後のスポーツ行政について、何を求めますか。(ひとつに○)

「身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る」の割合が52.9%と最も高く、次いで「年齢や趣向など様々な方を対象としたイベントや教室を実施する」の割合が20.0%となっています。

前回調査と比較すると、「身近に利用できる施設の整備やスポーツのできる場所の充実・有効活用を図る」が10.8ポイント増加しています。

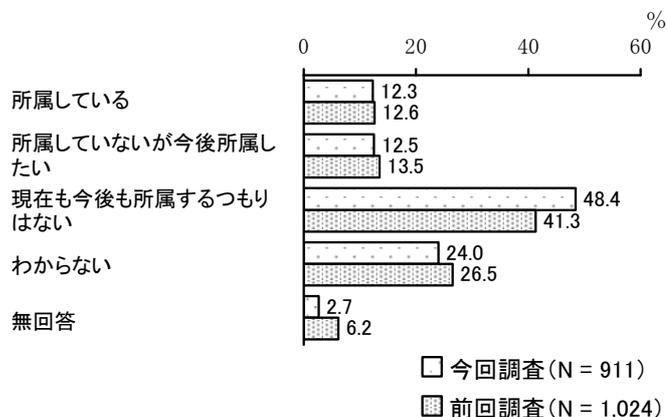


(4) 自身と地域のスポーツ活動団体との関係について

問 19 あなたは、スポーツ活動団体へ所属していますか。所属していない方は、所属したいと思いますか。(ひとつに○)

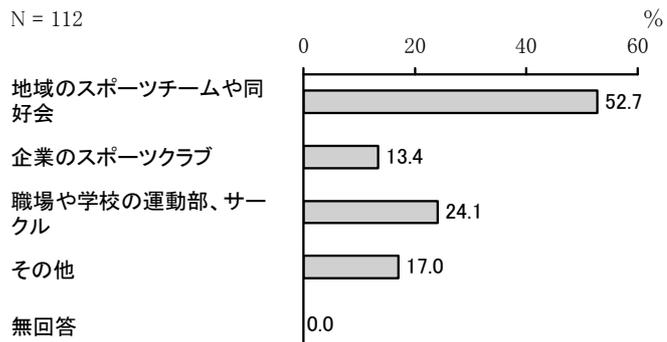
「現在も今後も所属するつもりはない」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 24.0%、「所属していないが今後所属したい」の割合が 12.5%となっています。

前回調査と比較すると、「現在も今後も所属するつもりはない」が 7.1ポイント増加しています。



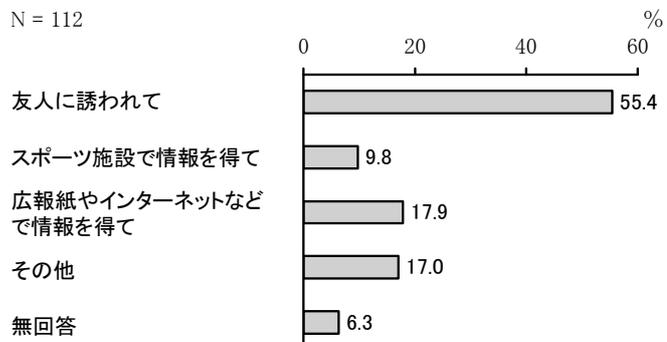
問 19-1 あなたは、どのような団体に所属していますか。(あてはまるものすべてに○)

「地域のスポーツチームや同好会」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「職場や学校の運動部、サークル」の割合が 24.1%、「企業のスポーツクラブ」の割合が 13.4%となっています。



問 19-2 あなたはどのようなきっかけで現在のスポーツ活動団体に所属しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「友人に誘われて」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「広報紙やインターネットなどで情報を得て」の割合が 17.9%となっています。

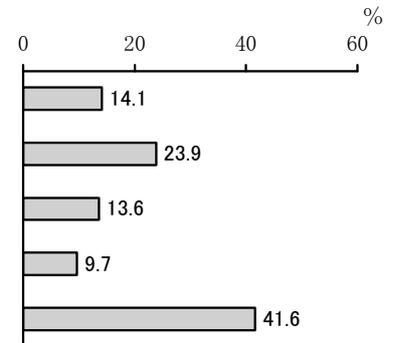


問 19-3 あなたがスポーツ活動団体へ所属していないのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「団体に所属せずにスポーツをしている(したい)から」の割合が23.9%と最も高く、次いで「スポーツに興味がないから」の割合が14.1%、「所属したいがスポーツ活動団体を知らないから」の割合が13.6%となっています。

N = 774

スポーツに興味がないから
団体に所属せずにスポーツ
をしている(したい)から
所属したいがスポーツ活動
団体を知らないから
その他
無回答

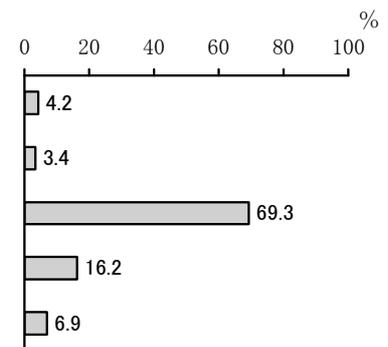


問 20 あなたは、地域でスポーツを指導したいと思いますか。(ひとつに○)

「現在も今後も指導するつもりはない」の割合が69.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が16.2%となっています。

N = 911

すでに指導している(したことがある)
指導していないが今後指導
したい
現在も今後も指導するつもり
はない
わからない
無回答

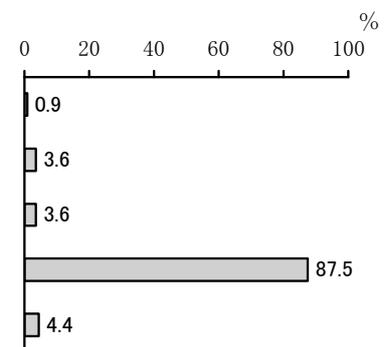


問 21 市川市公認スポーツ指導者制度を知っていますか。(ひとつに○)

「知らない」の割合が87.5%と最も高くなっています。

N = 911

顔や名前を知っている公認
スポーツ指導者がいる
知っている
名前を聞いたことがある
知らない
無回答

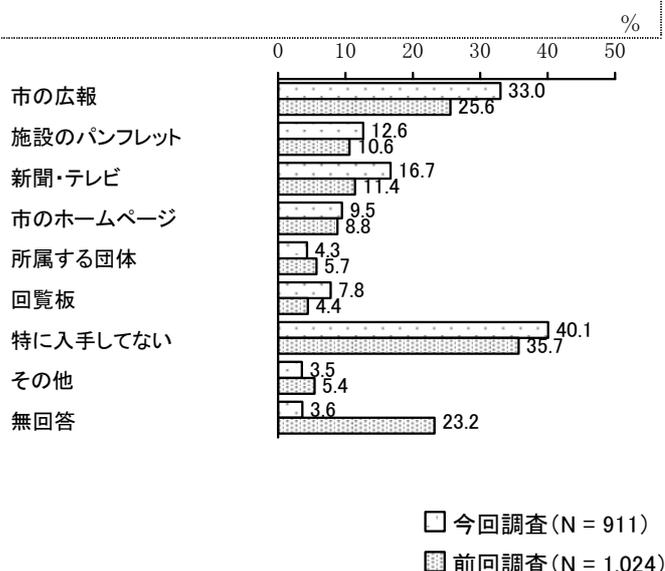


(5) スポーツに関する情報について

問 22 どのようにしてスポーツ活動の情報を入手しますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に入手してない」の割合が40.1%と最も高く、次いで「市の広報」の割合が33.0%、「新聞・テレビ」の割合が16.7%となっています。

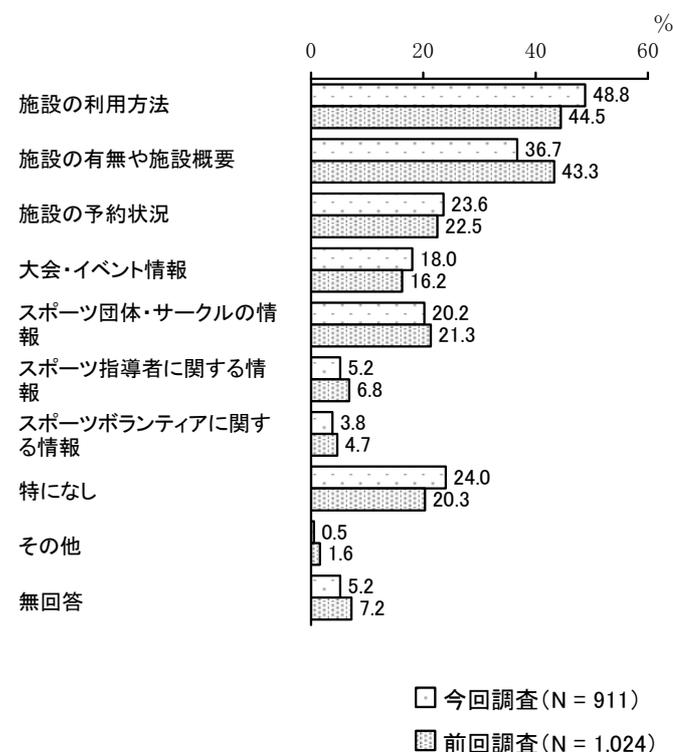
前回調査と比較すると、「市の広報」が7.4ポイント、「新聞・テレビ」が5.3ポイント増加しています。



問 23 スポーツに関してどのような情報が欲しいですか。(あてはまるものすべてに○)

「施設の利用方法」の割合が48.8%と最も高く、次いで「施設の有無や施設概要」の割合が36.7%、「特になし」の割合が24.0%となっています。

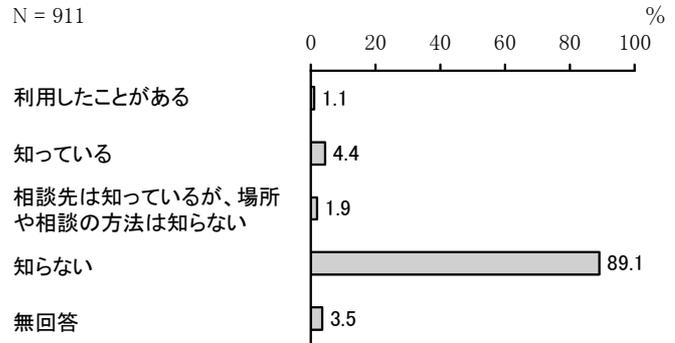
前回調査と比較すると、「施設の有無や施設概要」で6.6ポイント低くなっています。



問 24 市川市や地域の、スポーツや健康づくりに関する相談先を知っていますか。
(ひとつに○)

「知らない」の割合が89.1%と最も高くなっています。

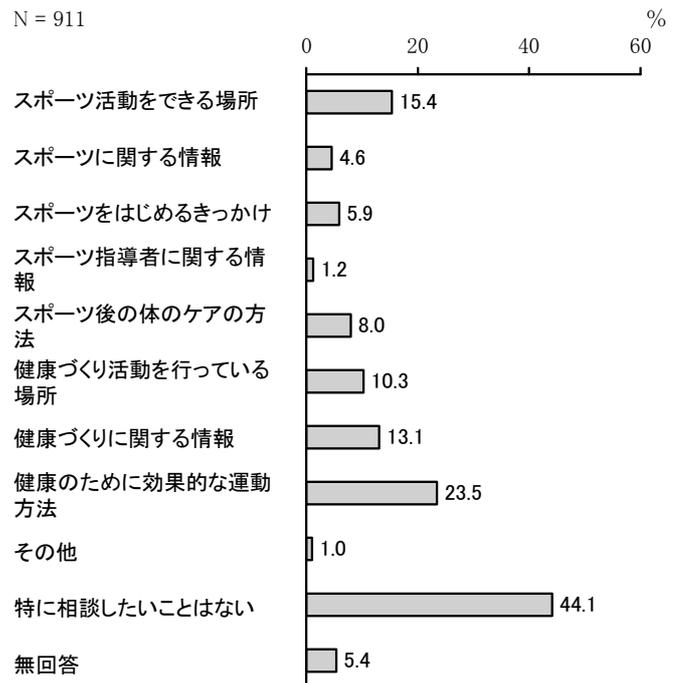
N = 911



問 25 スポーツや健康づくりについて何か相談したいことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に相談したいことはない」の割合が44.1%と最も高く、次いで「健康のために効果的な運動方法」の割合が23.5%、「スポーツ活動ができる場所」の割合が15.4%となっています。

N = 911



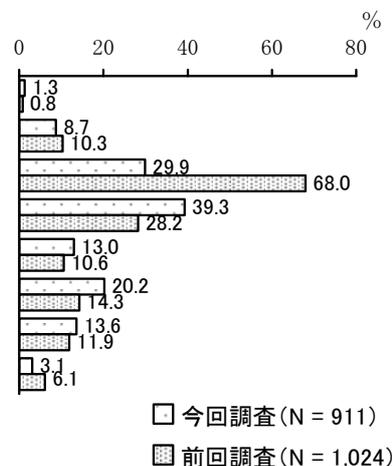
(6) 市川市が行っているスポーツ施策について

問 26 市では様々な種目のスポーツ教室やスポーツイベントを行っています。それらについてあてはまる項目をお選び下さい。(あてはまるものすべてに○)

「それらの情報を知らない」の割合が39.3%と最も高く、次いで「参加したことがない」の割合が29.9%、「興味がない」の割合が20.2%となっています。

前回調査と比較すると、「それらの情報を知らない」が11.1ポイント、「興味がない」が5.9ポイント増加しています。また、「参加したことがない」が38.1ポイント減少しています。

よく参加している
参加したことがある
参加したことがない
それらの情報を知らない
もっと情報を知りたい
興味がない
今後、参加してみたい
無回答

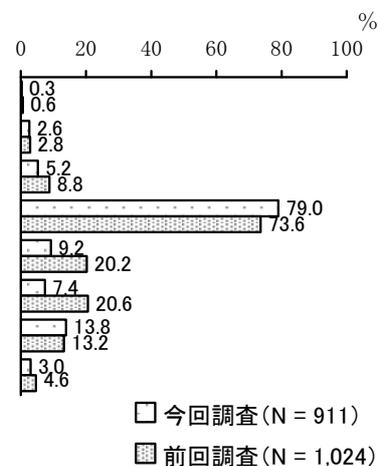


問 28 「総合型地域スポーツクラブ」という言葉を聞いたことがありますか。またこのような取り組みに興味がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「知らない」の割合が79.0%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が13.8%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が5.4ポイント増加しています。また、「興味がある」は11.0ポイント、「どちらともいえない」は13.2ポイント減少しています。

既に参加している
知っている
聞いたことがある
知らない
興味がある
どちらともいえない
興味がない
無回答

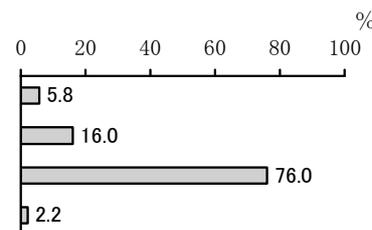


問 29 市川市体育協会を知っていますか。(ひとつに○)

「知らない」の割合が76.0%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがある」の割合が16.0%となっています。

N = 911

知っている
名前を聞いたことがある
知らない
無回答

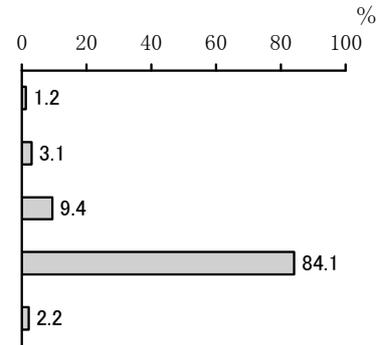


問 30 市川市スポーツ推進委員を知っていますか。(ひとつに〇)

「知らない」の割合が84.1%と最も高くなっています。

N = 911

顔や名前を知っている委員がいる
 知っている
 名前を聞いたことがある
 知らない
 無回答



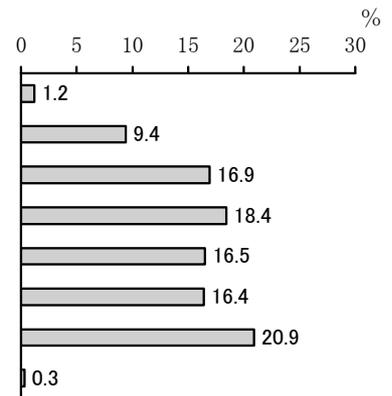
(7) 回答者属性

問 32 あなたの年齢をお教え下さい。(1つに〇)

「70歳代以上」の割合が20.9%と最も高く、次いで「40歳代」の割合が18.4%、「30歳代」の割合が16.9%となっています。

N = 911

10歳代
 20歳代
 30歳代
 40歳代
 50歳代
 60歳代
 70歳代以上
 無回答

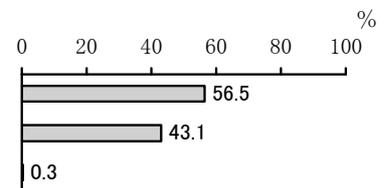


問 33 あなたの性別をお教え下さい。(1つに〇)

「女性」の割合が56.5%、「男性」の割合が43.1%となっています。

N = 911

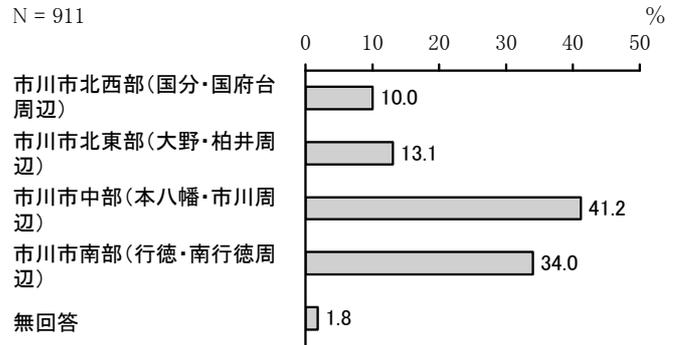
女性
 男性
 無回答



問 34 あなたが住んでいる地域をお教え下さい。(1つに○)

「市川市中部(本八幡・市川周辺)」の割合が41.2%と最も高く、次いで「市川市南部(行徳・南行徳周辺)」の割合が34.0%、「市川市北東部(大野・柏井周辺)」の割合が13.1%となっています。

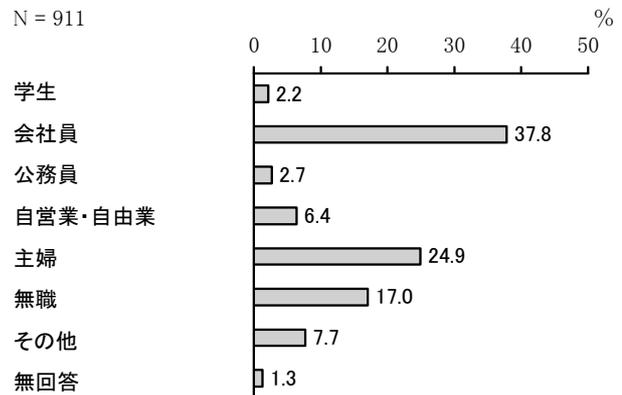
N = 911



問 35 あなたのお仕事をお教え下さい。(1つに○)

「会社員」の割合が37.8%と最も高く、次いで「主婦」の割合が24.9%、「無職」の割合が17.0%となっています。

N = 911



2 審議会委員名簿

■市川市スポーツ推進審議会委員（任期：平成28年11月1日～平成30年10月31日）

役職	選出区分	氏名
委員	学識経験者	佐々木 森雄
委員	学識経験者	玉井 令二
委員	学識経験者	水野 哲也
委員	学識経験者	湊 久美子
委員	学識経験者	松尾 正敏
委員	学識経験者	渡邊 隆子
委員	学識経験者	小幡 晶子
委員	関係行政機関の職員	清水 輝和
委員	関係行政機関の職員	山口 美佐子
委員	関係行政機関の職員	小林 淳

3 用語解説

【ウォーキング】

心身の健康づくりを目的とした歩行運動です。特別な準備や道具・施設を必要とせず、だれでも気軽に楽しむことができ、続けることで健康づくりに大いに役立ちます。

【学校体育施設開放事業】

市民のスポーツ活動の場を確保するため、市立小学校及び中学校の運動場、体育館その他の体育施設を開放する事業です。

【障がい者スポーツ】

身体障がいや知的障がい及び精神障がいなどの障がいのある人が行うスポーツのことを指します。既存のスポーツを障がい者の特性に合わせて修正したものや、障がい者のために考案された独自のスポーツもいくつかあります。障がいの種類によって、ろう者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の4つのグループに大きく分けられ、それぞれ個別の歴史、組織・競技大会・取組み方法が異なります。

【スポーツ基本法】

昭和36年に制定されたスポーツ振興法（昭和36年法律第141号）を全部改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるものです。平成23年8月24日に施行されました。

【総合型地域スポーツクラブ】

総合型地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブを指します。

【東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会】

東京都等で開催される「第32回オリンピック競技大会（2020/東京）」（2020年7月24日～8月9日）と「東京2020パラリンピック競技大会」（同8月25日～9月6日）を指します。



市川市スポーツ振興基本計画

平成 29 年 3 月発行

発行 市川市

編集 市川市 文化スポーツ部 スポーツ課
〒272-0827

千葉県市川市国府台 1 丁目 6 番 4 号 スポーツセンター内

電 話 047-373-3112

F A X 047-372-4290